

令和2事業年度

事業報告書

日本中央競馬会

I 業務の実施状況

1. 令和2事業年度の業務の実施状況

(1) 競馬の実施等

① 競馬の開催状況

・開催回数 36回 ・開催日数 288日

(内訳)

競馬場	開催回数	開催日数	競馬場	開催回数	開催日数
札幌競馬場	2回	14日	東京競馬場	5回	45日
函館競馬場	2回	12日	中京競馬場	3回	23日
福島競馬場	3回	20日	京都競馬場	4回	37日
新潟競馬場	4回	26日	阪神競馬場	6回	48日
中山競馬場	5回	43日	小倉競馬場	2回	20日

② 発売金及び開催競馬場入場人員

発売金	3兆0,004億8,167万4,200円
入場人員	99万0,970名

③ 国庫納付金

第1国庫納付金	2,991億1,872万3,780円
第2国庫納付金	307億6,446万8,332円

④ 主な業績項目の数値

項目	数式	当該事業年度数値
競馬開催計画 達成率	開催回数 開催実施回数／開催計画回数	100%
	開催日数 開催実施日数／開催計画日数	100%
職員一人当り の効率	対売上収入 売得金額／職員数	1,681,386千円
	対入場人員 入場人員数／職員数	557名
対売上収益率	剰余金／売得金額	2.05%

(2) 馬主、馬（競走馬）及び服色の登録

登録の種類	〔J R A所属〕			〔その他〕 ※ i ii	
	登録の数	取消の数	本事業年度末数	国際関係	地方関係
馬主の登録	135名	104名	2,599名	1(8)名	31名
競走馬登録	5,330頭	5,222頭	8,911頭	1(1)頭	79頭
服色の登録	134件	108件	2,004件	1(8)件	—

※ i 「国際関係」：国際交流競走に係わる登録の数（カッコ内は取消の数）

ii 「地方関係」：地方競馬との指定交流競走に係わる登録の数（取消の数は登録と同数）

(3) 調教師及び騎手の免許

免許の種類	〔J R A所属〕 ※ i ii			〔その他〕 ※ iii iv v vi			
	免許の数	取消の数	本事業年度末数	短期	国際関係	特別条件	地方関係
調教師の免許	195名	2名	194名	—	1名	—	70名
騎手の免許	140名	6名	135名	7名	0名	0名	49名

※ i 「免許の数」：3月1日付免許者数

ii 「取消の数」：免許期間を満了せずに事業年度途中で取り消した者の数

iii 「短期」：臨時試験による短期騎手免許者数（延人数）

iv 「国際関係」：国際交流競走・国際騎手招待競走に係わる免許者数（延人数）

v 「特別条件」：特別条件該当者に対する臨時試験による1日限定の免許者数

vi 「地方関係」：地方競馬との指定交流競走に係わる免許者数（延人数）

(4) 競走馬の育成

日高育成牧場及び宮崎育成牧場において、育成研究を目的として市場購買馬（令和元年購買の2歳馬75頭及び令和2年購買の1歳馬75頭）の育成を行いました。

また、日高育成牧場及び宮崎育成牧場において、生産育成研究を目的としてJ R A生産馬（当歳馬9頭、1歳馬9頭及び2歳馬9頭）の育成を行いました。

(5) 騎手の養成・訓練

競馬学校において騎手の養成を行い、4名が卒業しました。令和2事業年度末現在の在校生数は25名となっています。

(6) 日本中央競馬会法第19条第2項第4号に掲げる業務

上記(1)～(5)の業務のほか、競馬の健全な発展を図るため必要な業務を行いました。

そのうち、特別振興資金を使用して、競馬振興事業を実施しました。

合計金額 11,716,895,378 円

(7) 畜産振興事業

特別振興資金を使用して、畜産振興事業を実施しました。

合計金額 3,961,316,004 円

(8) 払戻金への上乗せ

特別振興資金を使用して、1号給付金及び2号給付金を払戻金に上乗せしました。

1号給付金 3,239,433,090 円

2号給付金 3,382,427,970 円

合計金額 6,621,861,060 円

(9) 競走馬生産振興業務への交付

地方競馬全国協会が行う「競走馬生産振興業務」に対して、特別振興資金を使用して、交付金を交付しました。

合計金額 2,316,000,000 円

(10) 認定競馬活性化計画補助業務への交付

地方競馬全国協会が行う「認定競馬活性化計画補助業務」に対して、特別振興資金を使用して、交付金を交付しました。

合計金額 2,739,863,495 円

(11) 借入金、財政投融资資金及び国庫補助金等による資金調達の状況

該当ありません。

2. 前事業年度までにおける業務の実施状況

(1) 競馬の実施等

① 競馬の開催状況

事業年度	平成 29 年		平成 30 年		令和元年	
	開催回数	開催日数	開催回数	開催日数	開催回数	開催日数
札幌競馬場	2 回	12 日	2 回	12 日	2 回	12 日
函館競馬場	2 回	12 日	2 回	12 日	2 回	12 日
福島競馬場	3 回	20 日	3 回	20 日	3 回	20 日
新潟競馬場	3 回	26 日	3 回	26 日	3 回	26 日
中山競馬場	5 回	41 日	5 回	41 日	5 回	41 日
東京競馬場	5 回	45 日	5 回	45 日	5 回	45 日
中京競馬場	4 回	26 日	4 回	26 日	4 回	26 日
京都競馬場	5 回	44 日	5 回	44 日	5 回	44 日
阪神競馬場	5 回	42 日	5 回	42 日	5 回	42 日
小倉競馬場	2 回	20 日	2 回	20 日	2 回	20 日
合 計	36 回	288 日	36 回	288 日	36 回	288 日

② 発売金及び開催競馬場入場人員

事業年度	発 売 金	入場人員
平成 29 年	2,768,992,863,200 円	6,175,238 名
平成 30 年	2,816,163,708,300 円	6,266,912 名
令和元年	2,911,708,501,300 円	6,236,197 名

③ 国庫納付金

事業年度	第 1 国庫納付金	第 2 国庫納付金
平成 29 年	275,783,957,790 円	29,657,225,757 円
平成 30 年	280,587,814,500 円	27,734,370,621 円
令和元年	289,956,228,310 円	30,571,837,819 円

④ 主な業績項目の数値

項 目		平成 29 年	平成 30 年	令和元年
競馬開催計画 達成率	開催回数	100%	100%	100%
	開催日数	100%	100%	100%
職員一人当り の効率	対売上収入	1,568,736 千円	1,591,536 千円	1,642,811 千円
	対入場人員	3,512 人	3,554 人	3,533 人
対売上収益率		2.15%	1.97%	2.10%

(2) 馬主、馬（競走馬）及び服色の登録

① 馬主の登録

事業年度	〔JRA所属〕			〔その他〕 ※ i ii	
	登録の数	取消の数	当該事業年度末数	国際関係	地方関係
平成 29 年	135 名	117 名	2,400 名	5(5)名	38 名
平成 30 年	176 名	103 名	2,473 名	5(7)名	71 名
令和元年	165 名	70 名	2,568 名	0(2)名	31 名

② 競走馬登録

事業年度	〔JRA所属〕			〔その他〕 ※ i ii	
	登録の数	取消の数	当該事業年度末数	国際関係	地方関係
平成 29 年	5,358 頭	5,192 頭	8,428 頭	7(7)頭	106 頭
平成 30 年	5,392 頭	5,223 頭	8,597 頭	7(7)頭	116 頭
令和元年	5,528 頭	5,322 頭	8,803 頭	0(0)頭	76 頭

③ 服色の登録

事業年度	〔JRA所属〕			〔その他〕 ※ i
	登録の数	取消の数	当該事業年度末数	国際関係
平成 29 年	140 件	132 件	1,904 件	5(5)件
平成 30 年	136 件	105 件	1,935 件	5(7)件
令和元年	132 件	89 件	1,978 件	0(2)件

※ i 「国際関係」：国際交流競走に係わる登録の数（カッコ内は取消の数）

ii 「地方関係」：地方競馬との指定交流競走に係わる登録の数（取消の数は登録と同数）

(3) 調教師及び騎手の免許

① 調教師の免許

事業年度	〔J R A所属〕 ※ i ii			〔その他〕 ※ iv v	
	免許の数	取消の数	当該事業年度末数	国際関係	地方関係
平成 29 年	200 名	0 名	200 名	7 名	94 名
平成 30 年	193 名	1 名	192 名	7 名	105 名
令和元年	190 名	0 名	190 名	0 名	68 名

② 騎手の免許

事業年度	〔J R A所属〕 ※ i ii			〔その他〕 ※ iii iv v vi			
	免許 の数	取消 の数	本事業 年度末数	短期	国際 関係	特別 条件	地方 関係
平成 29 年	136 名	2 名	134 名	14 名	12 名	—	101 名
平成 30 年	137 名	4 名	133 名	16 名	12 名	—	97 名
令和元年	141 名	3 名	138 名	12 名	5 名	1 名	71 名

- ※ i 「免許の数」 : 3月1日付免許者数
 ii 「取消の数」 : 免許期間を満了せずに事業年度途中で取り消した者の数
 iii 「短期」 : 臨時試験による短期騎手免許者数 (延人数)
 iv 「国際関係」 : 国際交流競走・国際騎手招待競走に係わる免許者数 (延人数)
 v 「特別条件」 : 特別条件該当者に対する臨時試験による1日限定の免許者数
 vi 「地方関係」 : 地方競馬との指定交流競走に係わる免許者数 (延人数)

(4) 競走馬の育成

事業年度	育成頭数	(内訳)	当歳馬	1歳馬	2歳馬
			平成 29 年	167(19)頭	6(6)頭
平成 30 年	169(20)頭	9(9)頭	81(6)頭	79(5)頭	
令和元年	174(24)頭	9(9)頭	84(9)頭	81(6)頭	

※ ()内は育成した J R A 生産馬の頭数 (内数)

(5) 騎手の養成・訓練

事業年度	競馬学校卒業者数	当該事業年度末在校生数
平成 29 年	5 名	18 名
平成 30 年	3 名	21 名
令和元年	7 名	21 名

(6) 日本中央競馬会法第 19 条第 2 項第 4 号に掲げる業務

- ① 平成 29 年、平成 30 年及び令和元年の各事業年度において、上記 (1) ~ (5) の業務のほか、競馬の健全な発展を図るため必要な業務を実施しました。
- ② 競馬振興事業

事業年度	金 額
平成 29 年	7,465,342,865 円
平成 30 年	11,326,885,926 円
令和元年	25,880,584,536 円

(7) 畜産振興事業

事業年度	金 額
平成 29 年	3,958,595,216 円
平成 30 年	3,894,828,490 円
令和元年	4,566,022,535 円

(8) 払戻金への上乗せ

事業年度	金 額
平成 29 年	6,141,790,280 円
平成 30 年	6,449,545,420 円
令和元年	6,471,668,810 円

(内訳)

1 号給付金	2 号給付金
3,125,295,820 円	3,016,494,460 円
3,078,455,120 円	3,371,090,300 円
3,161,942,790 円	3,309,726,020 円

(9) 競走馬生産振興業務への交付

事業年度	金額
平成 29 年	1,000,000,000 円
平成 30 年	2,455,000,000 円
令和元年	1,320,000,000 円

(10) 認定競馬活性化計画補助業務への交付

事業年度	金額
平成 29 年	4,410,370,016 円
平成 30 年	737,793,099 円
令和元年	1,150,264,300 円

(11) 借入金、財政投融资資金及び国庫補助金等による資金調達状況

平成 29 年、平成 30 年及び令和元年の各事業年度について、該当ありません。

Ⅱ 日本中央競馬会の概要

1. 業務の内容

日本中央競馬会は、競馬の健全な発展を図って馬の改良増殖その他畜産の振興に寄与することを目的とし、その目的を達成するため次の業務を行うことが法定されています。

(1) 業務内容

- ① 中央競馬の実施
- ② 馬主、馬（競走馬）及び服色の登録
- ③ 調教師及び騎手の免許
- ④ 競走馬の育成
- ⑤ 騎手の養成・訓練
- ⑥ 競馬法第 21 条に基づき委託を受ける競馬の実施に関する事務
- ⑦ その他競馬の健全な発展を図るため必要な業務
- ⑧ 畜産振興事業等について助成することを業務とする法人に対し、当該助成に必要な資金の全部又は一部を交付する業務
- ⑨ 競馬法附則第 5 条第 1 項第 1 号及び第 2 号に規定する当該勝馬投票の的中者に対し、給付金を交付する業務
- ⑩ 地方競馬全国協会が行う競走馬生産振興業務に対し、交付金を交付する業務（令和 4 事業年度までの間）
- ⑪ 地方競馬全国協会が行う認定競馬活性化計画補助業務に対し、交付金を交付する業務（令和 4 事業年度までの間）

(2) 根拠規定

日本中央競馬会法（昭和 29 年 7 月 1 日法律第 205 号）第 19 条

競馬法（昭和 23 年 7 月 13 日法律第 158 号）附則第 5 条及び第 8 条

2. 各事務所の所在地

名 称	郵便番号	住 所	電話番号
本 部	106-8401	港区六本木 6 丁目 11 番 1 号	03-3591-5251
馬 事 公 苑	158-8523	世田谷区上用賀 2 丁目 1 番 1 号	03-3429-5101
競 馬 学 校	270-1431	白井市根 835 番地 1	047-491-0333
競走馬総合研究所	329-0412	下野市柴 1400 番 4 号	0285-44-0090
日 高 育 成 牧 場	057-0171	北海道浦河郡浦河町字西舎 535 番地の 13	0146-28-1211
宮 崎 育 成 牧 場	880-0036	宮崎市花ヶ島町大原 2347 番地	0985-25-3448
栗東トレーニング ・センター	520-3085	栗東市御園 1028 番地	077-558-0101
美浦トレーニング ・センター	300-0493	茨城県稲敷郡美浦村大字美駒 2500 番地 の 2	029-885-2111
札 幌 競 馬 場	060-0016	札幌市中央区北 16 条西 16 丁目 1 番 1 号	011-726-0461
函 館 競 馬 場	042-8585	函館市駒場町 12 番 2 号	0138-53-1021
福 島 競 馬 場	960-8114	福島市松浪町 9 番 23 号	024-534-2121
新 潟 競 馬 場	950-3301	新潟市北区笹山 3490 番地	025-259-3141
中 山 競 馬 場	273-0037	船橋市古作 1 丁目 1 番 1 号	047-334-2222
東 京 競 馬 場	183-0024	府中市日吉町 1 番地の 1	042-363-3141
中 京 競 馬 場	470-1132	豊明市間米町敷田 1225 番地	052-623-2001
京 都 競 馬 場	612-8265	京都市伏見区葎島渡場島町 32 番地	075-631-3131
阪 神 競 馬 場	665-0053	宝塚市駒の町 1 番 1 号	0798-51-7151
小 倉 競 馬 場	802-0841	北九州市小倉南区北方 4 丁目 5 番 1 号	093-962-3236

3. 資本金の総額及び政府の出資額並びにこれらの増減

資本金の総額	政府の出資額	前期末比増減
4,924,129,000 円	全額政府出資	0

4. 役員の定数並びに各役員の氏名、役職、任期及び経歴等 (令和 2 年末現在)

(1) 役員の定数

理事長 1 人、副理事長 1 人、理事 10 人以内及び監事 3 人以内

(2) 各役員の氏名、役職、任期、経歴

役 職	氏 名	任 期	経 歴
理 事 長	後藤 正幸	2020年9月12日～2023年9月11日	日本中央競馬会常務理事
副理事長	本川 一善	2020年3月1日～2023年2月28日	農林水産事務次官
常務理事	木所 康夫	2019年3月1日～2021年2月28日	日本中央競馬会理事
理 事	木村 一人	2019年3月1日～2021年2月28日	日本中央競馬会 総合企画部長
理 事	吉田 正義	2019年3月1日～2021年2月28日	日本中央競馬会競走部長
理 事	吉崎 一郎	2019年3月1日～2021年2月28日	日本中央競馬会 東京競馬場長
理 事	福田 正二	2019年3月1日～2021年2月28日	日本中央競馬会審判部長
理 事	横田 貞夫	2019年3月1日～2021年2月28日	日本中央競馬会 京都競馬場長
理 事	臼田 雅弘	2019年3月1日～2021年2月28日	日本中央競馬会広報部長
理 事	上野 儀治	2020年3月1日～2021年2月28日	日本中央競馬会競走部長
監 事	小日向照夫	2019年10月1日～2021年9月30日	日本中央競馬会人事部長
監 事 (非常勤)	田中佐知子	2020年9月16日～2022年9月15日	弁護士
監 事 (非常勤)	小谷実可子	2020年9月16日～2022年9月15日	NPO法人 日本ホスピタリティ協会理事

(3) 役員の変動

- ① 2月29日付けで町田勝弘副理事長、中村嘉宏理事が退任し、翌3月1日付けで本川一善前参与が副理事長、上野儀治前競走部長が理事に任命されました。
- ② 9月12日付けで後藤正幸理事長が再任されました。
- ③ 9月15日付けで矢島匡監事が退任し、翌9月16日付けで田中佐知子監事が任命されました。
- ④ 9月16日付けで小谷実可子監事が再任されました。
- ⑤ 9月30日付けで山下正行常務理事が退任しました。

5. 職員の定数及びその増減（令和2年末現在）

職員の定数	前期末比増減
1, 779人	14人増

6. 日本中央競馬会の沿革

昭和29年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日本中央競馬会の設立（9月16日） 昭和23年に当時の「日本競馬会」の業務を継承したいわゆる「国営競馬」を引き継いで、競馬法（昭和23年7月13日法律第158号）により競馬を行う特殊法人として、日本中央競馬会法（昭和29年7月1日法律第205号）により設立
平成3年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 競馬法及び日本中央競馬会法の一部を改正する法律の施行 <ul style="list-style-type: none"> ① 馬主の登録制度並びに調教師及び騎手の免許制度の改善 ② 馬主登録等がより公正に行われるための審査会の設置 ③ 日本中央競馬会の剰余金を有効に活用するための特別振興資金及び特別給付資金の新設 ④ 競馬振興事業及び畜産振興事業の新設 ⑤ 単勝式及び複勝式の勝馬投票の的中者に対し、特別給付金を交付する特別給付業務の新設
平成17年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 競馬法の一部を改正する法律の施行 <ul style="list-style-type: none"> ① 中央競馬の実施に関する事務を政令で定めるところにより都道府県等に委託することができることを新たに規定 ② 勝馬投票券の購入等の制限の対象から成年である学生生徒が除外 ③ 単勝式及び複勝式の払戻率を改正（特別給付業務は平成16年末までの分をもって終了） ○ 「行政改革の重要方針」の閣議決定（12月24日） <ul style="list-style-type: none"> ① 現行の組織形態（特殊法人）を継続 ② 競馬の公正・中立性の確保上支障のない範囲において主務大臣の関与・規制の緩和 ③ 競争入札への移行の促進、子会社等の統合、外部監査の導入等を図ること
平成19年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 競馬法及び日本中央競馬会法の一部を改正する法律の施行 <ul style="list-style-type: none"> ① 経営委員会の設置 ② 農林水産大臣の関与及び規制の緩和（規約についての関与の緩和、役員任免等に関して大臣認可を不要とすること等） ③ 1号給付金及び2号給付金を交付する業務の新設
平成24年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 競馬法の一部を改正する法律の施行 払戻金の算出方法の見直し
平成27年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 競馬法の一部を改正する法律の施行 海外競馬の競走についての勝馬投票の実施

7. 根拠法 日本中央競馬会法

8. 主務大臣 農林水産大臣

9. 経営委員会の概要（令和2年末現在）

経営委員会は、日本中央競馬会法第8条の2の規定に基づいて設置され、農林水産大臣が任命する委員6人及び理事長の7人により構成されています。

(1) 各委員の氏名、任期及び職名等

氏名	任期	職名等
片山 雅文	2019年9月1日～2022年8月31日	(株)産経新聞社 常勤監査役
小林 栄三 (委員長)	2019年9月1日～2022年8月31日	伊藤忠商事(株) 名誉理事
酒井 順子	2019年9月1日～2022年8月31日	エッセイスト
田島 優子	2019年9月1日～2022年8月31日	弁護士
眞鍋 昇	2019年9月1日～2022年8月31日	大阪国際大学 学長補佐
山西健一郎 (委員長代理)	2019年9月1日～2022年8月31日	三菱電機(株) 特別顧問

(2) 経営委員会の開催概要

- ① 第1回経営委員会（1月23日）
 - ・ 令和元年度の中央競馬の実績の報告
- ② 第2回経営委員会（2月14日）
 - ・ 役員任命について（案）の同意
 - ・ 令和2事業年度予算実施計画（案）の議決 ほか
- ③ 第3回経営委員会（3月11日）
 - ・ 令和元事業年度決算（案）の議決
 - ・ 新型コロナウイルス感染症に係る対応についての報告 ほか
- ④ 第4回経営委員会（5月15日～5月21日） ※書面表決
 - ・ 日本中央競馬会職員給与規程の一部改正について（案）の議決
 - ・ 令和元事業年度経営目標の達成状況の評価（案）の議決 ほか
- ⑤ 第5回経営委員会（7月17日）

- ・ 令和3年から5年までの設備投資中期計画（案）の議決
- ・ 9月21日の払戻金の率について（案）の議決 ほか
- ⑥ 第6回経営委員会（8月21日）
 - ・ 新型コロナウイルス感染症に係るJRAの各種対応等についての報告 ほか
- ⑦ 第7回経営委員会（9月15日）
 - ・ JRAにおける競走馬の暑熱対策についての報告 ほか
- ⑧ 第8回経営委員会（10月15日）
 - ・ 令和3事業年度事業計画（案）（「開催計画」「重賞競走の改善」に係る部分）の議決
 - ・ 新型コロナウイルス感染症に係るJRAの支援についての報告 ほか
- ⑨ 第9回経営委員会（11月20日）
 - ・ 令和3事業年度経営目標（案）の決定
 - ・ 令和3事業年度事業計画（案）の議決
 - ・ 令和3事業年度収支予算（案）の議決
 - ・ 勝馬投票に係る金額の支払にクレジットカードを使用する方法の実施に関する規約の一部改正について（案）の議決
 - ・ 12月13日及び12月20日の払戻金の率について（案）の議決 ほか

（3）委員の異動

なし

10. 運営審議会の概要（令和2年末現在）

日本中央競馬会法第16条の規定により、日本中央競馬会の業務の執行に関する重要事項を調査審議するため、理事長が農林水産大臣の認可を受けて任命する者により構成される運営審議会が設置されています。

（1）各委員の氏名、任期及び職名等

氏名	任期	職名等
大西 洋	2019年9月16日～2021年9月15日	日本空港ビルデング(株) 取締役副社長
大八木 信行	2019年9月16日～2021年9月15日	日本馬主協会連合会 会長
岡本 金彌	2019年9月16日～2021年9月15日	元 日本中央競馬会 副理事長
川崎 麻児	2019年9月16日～2021年9月15日	日本画家
木村 貢	2019年9月16日～2021年9月15日	日高軽種馬農業協同組合 代表理事組合長
鈴木 淑子	2019年9月16日～2021年9月15日	競馬ジャーナリスト
高嶋 達佳	2019年9月16日～2021年9月15日	(公社)企業メセナ協議会 会長
武 豊	2019年9月16日～2021年9月15日	日本騎手クラブ 会長
橋田 満	2019年9月16日～2021年9月15日	(一社)日本調教師会 会長
松本 好雄	2019年9月16日～2021年9月15日	中央競馬馬主相互会 会長

（2）運営審議会の開催概要

- ① 第1回運営審議会（3月3日）※書面表決
 - ・ 令和元事業年度決算（案）について
- ② 第2回運営審議会（10月14日） ※書面表決
 - ・ 令和3事業年度事業計画（案）（「開催計画」「重賞競走の改善」に係る部分）について
- ③ 第3回運営審議会（11月12日）
 - ・ 令和3事業年度事業計画（案）について
 - ・ 令和3事業年度収支予算（案）について
 - ・ 勝馬投票に係る金額の支払にクレジットカードを使用する方法の実施に関する規約の一部改正について（案）

(3) 委員の異動

なし

1.1. 公正審査会議の概要（令和2年末現在）

日本中央競馬会法第20条の規定に基づき、馬主の登録・抹消、調教師及び騎手の免許・取消し、行政不服審査法による審査請求に対する裁決などについて意見を聴くため、理事長が学識経験者から公正審査委員を任命し、委員による公正審査会議を開催しました。

(1) 各委員の氏名、任期及び経歴

氏名	任期	経歴
石木 俊治	2019年9月7日～2021年9月6日	元 内閣法制局第四部長
石原 葵	2019年9月7日～2021年9月6日	元 日本中央競馬会副理事長
井上 美昭	2019年9月7日～2021年9月6日	元 関東管区警察局長
酒井 邦彦	2019年9月7日～2021年9月6日	元 広島高等検察庁検事長
酒井 啓子	2019年9月7日～2021年9月6日	千葉大学グローバル 関係融合研究センター長
福沢 恵子	2019年9月7日～2021年9月6日	(公財)日本女性学習財団理事
福地 献一	2019年9月7日～2021年9月6日	元 (株)朝日新聞社取締役

(2) 委員の異動

なし

(3) 公正審査会議の開催概要

- ① 第1回公正審査会議（1月17日）
- ② 第2回公正審査会議（2月7日）
 - ・ 令和2年度調教師及び騎手免許について
 - ・ 馬主登録について（個人馬主による法人馬主登録1件）
 - ・ 馬主登録について（組合馬主の組合員追加1件）
 - ・ 馬主登録審査基準関連事項の見直しについて

- ・ 馬主登録取消ガイドラインの改正について
- ③ 第3回公正審査会議（3月13日）
 - ・ 馬主登録について（相続馬限定1件）
 - ・ 馬主登録について（個人馬主による法人馬主登録2件）
 - ・ 公正審査会議運営規則の改正について
- ④ 第4回公正審査会議 ※書面審査（4月2日～4月16日）
 - ・ 馬主登録について（法人馬主代表者による個人馬主登録1件）
- ⑤ 第5回公正審査会議 ※休会
- ⑥ 第6回公正審査会議（6月18日）
 - ・ 令和2年第1回馬主登録審査に係る馬主登録について（25件）
 - ・ 馬主登録について（相続馬限定1件）
 - ・ 馬主登録について（法人馬主代表者による法人馬主登録1件）
 - ・ 馬主登録について（個人馬主による法人馬主登録3件）
 - ・ 馬主登録について（組合馬主の組合員追加1件）
- ⑦ 第7回公正審査会議（7月9日）
 - ・ 令和2年第2回馬主登録審査に係る馬主登録について（53件）
 - ・ 馬主登録について（相続馬限定2件）
 - ・ 馬主登録について（法人馬主の代表者変更2件）
 - ・ 馬主登録について（組合馬主の組合員追加1件）
- ⑧ 第8回公正審査会議 ※書面審査（9月3日～9月11日）
 - ・ 馬主登録について（相続馬限定3件）
 - ・ 馬主登録について（個人馬主による法人馬主登録3件）
 - ・ 馬主登録について（法人馬主の代表者変更1件）
- ⑨ 第9回公正審査会議（10月9日）
 - ・ 馬主登録について（個人馬主による法人馬主登録1件）
 - ・ 馬主登録について（組合馬主の組合員変更1件）
- ⑩ 第10回公正審査会議（11月13日）
 - ・ 令和2年第3回馬主登録審査に係る馬主の登録について（38件）
 - ・ 馬主登録について（個人馬主による法人馬主登録2件）
 - ・ 馬主登録について（組合馬主の組合員追加1件）
- ⑪ 第11回公正審査会議（12月9日）

- 令和3年度調教師免許（新規）について
 - 馬主登録について（個人馬主登録2件）
 - 馬主登録について（相続馬限定1件）
 - 馬主登録について（法人馬主の代表者変更2件）
 - 馬主登録について（法人馬主代表者による法人馬主登録1件）
- ※ 上記以外に、緊急に審査する必要があったため下記のとおり書面審査を実施した。
- ① 書面審査（7月31日～8月7日）
- 馬主登録について（相続馬限定2件）

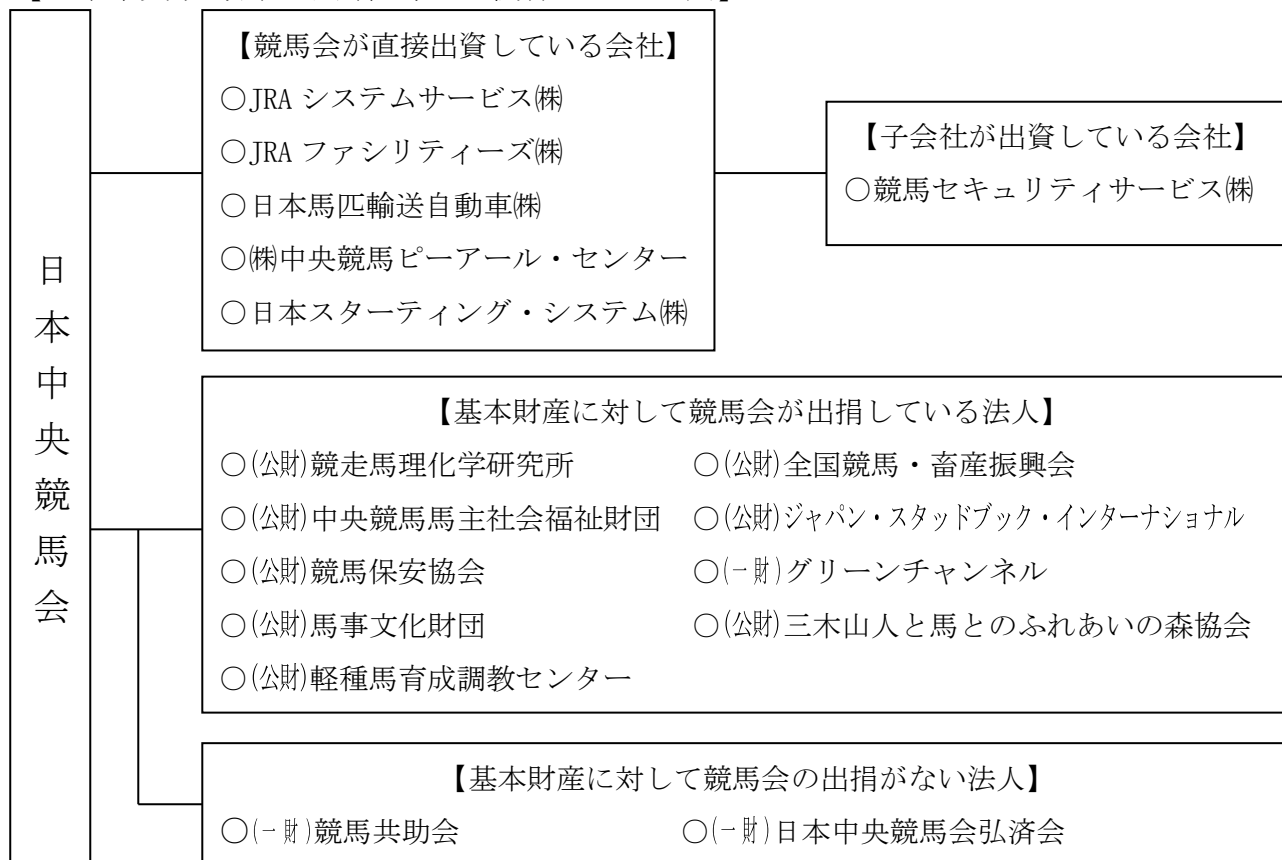
Ⅲ 子会社等に関する事項（令和2年末現在）

1. 子会社等の状況

日本中央競馬会法施行規則（昭和29年農林省令第56号）第10条第3号に定める子会社等の状況は以下のとおりです。

- (1) 子会社：JRAシステムサービス(株)、JRAファシリティーズ(株)、日本馬匹輸送自動車(株)、(株)中央競馬ピーアール・センター、日本スターティング・システム(株)、競馬セキュリティサービス(株)
- (2) 関連会社：なし
- (3) 関連一般社団法人等：(公財)競走馬理化学研究所、(公財)中央競馬馬主社会福祉財団、(公財)競馬保安協会、(公財)馬事文化財団、(公財)軽種馬育成調教センター、(公財)全国競馬・畜産振興会、(公財)ジャパン・スタッドブック・インターナショナル、(-財)グリーンチャンネル、(公財)三木山人と馬とのふれあいの森協会、(-財)競馬共助会、(-財)日本中央競馬会弘済会

【日本中央競馬会と子会社等との関係を示した図】



2. 子会社の名称、住所、資本金、事業内容、役員数、代表者の氏名、従業員数、日本中央競馬会の所有する議決権の議決権の総数に対する割合及び日本中央競馬会との関係

子会社の名称・住所 代表者の氏名 資本金 競馬会の議決権所有割合	主な事業内容	売上高 当期純利益 利益剰余金 (R1 決算額)	役員数 (うち常勤) 従業員数	競馬会との関係 ア 売上高中の競馬会との取引額 (R1 実績) イ 競馬会との重要な取引の概要 ウ 競馬会役員の兼任状況
JRAシステムサービス㈱ 【平成 19 年 10 月設立】 東京都江東区永代 1-14-5 代表取締役社長 中村 嘉宏 500,000千円 54.5% (子会社を含めた議決権の所有割合 100%)	<ul style="list-style-type: none"> ・トータリゼータシステム及び各種情報処理システム並びにそれらのシステムに関連する機器の運用及び保守整備 ・競馬に関する情報の提供 ・各種機器・車両及び競馬用諸設備の売買及び賃貸借並びにそれらに付帯する物品の売買及び賃貸借 	(百万円) 18,554 419 7,104	(人) 14 (11) 538	ア 14,925百万円 イ ・トータリゼータシステム等の運用保守管理業務 ・トータリゼータシステム等のソフトウェア開発業務 ・競馬に関する情報提供システムの運用業務 ・電子計算機等のリース業務 ウ なし
JRAファシリティーズ㈱ 【平成 19 年 10 月設立】 東京都中央区八丁堀 3-19-9 代表取締役社長 横山 清弘 300,000千円 94.9% (子会社を含めた議決権の所有割合 100%)	<ul style="list-style-type: none"> ・建物、馬場、造園及び各種設備の保守管理並びに関連資材の販売 ・施設等の清掃、環境衛生、防疫、廃棄物の管理及び警備 ・出走馬一覧表等各種刊行物の作製及び版下作成 ・飼糧、敷料及び添加物等の輸入並びに販売 ・損害保険代理業及び生命保険の募集等 	21,194 869 11,174	16 (12) 447	ア 16,379百万円 イ ・諸施設の清掃業務 ・レーシングプログラムの作製 ・建物、設備、馬場等の設計管理業務 ・損害保険代理業務 ウ なし
日本馬匹輸送自動車㈱ 【昭和 22 年 8 月設立】 東京都港区新橋 6-20-11 代表取締役社長 谷崎 潤 36,000千円 100%	<ul style="list-style-type: none"> ・競走馬の輸送 	1,945 79 1,450	5 (3) 97	ア 1,904百万円 イ ・競走馬輸送業務 ウ なし
㈱中央競馬ピーアール・センター 【昭和 53 年 10 月設立】 東京都港区新橋 4-5-4 代表取締役社長 福井 紳弥 20,000千円 64.3% (子会社を含めた議決権の所有割合 100%)	<ul style="list-style-type: none"> ・競馬及び馬文化等に関する図書及び印刷物の企画、編集、制作、出版及び販売 ・競馬及び馬文化等に関する映像業務、音声業務並びにその機器の運用、開発、販売、賃貸及び保守整備 ・競馬及び馬文化等に関する各種情報の収集及び提供 	6,459 216 2,164	7 (4) 119	ア 3,353百万円 イ ・映像伝送ネットワークシステム運用保守管理業務 ・競馬実況中継放送代理業務 ウ なし
日本スターティング・システム㈱ 【昭和 40 年 9 月設立】 東京都港区西新橋 1-22-10 代表取締役社長 水野 豊香 10,000千円 100%	<ul style="list-style-type: none"> ・発馬機及びその周辺機器等の運用並びに保守整備 ・発馬機及びその周辺機器の賃貸並びに販売 ・競走馬の発走に関する補助 	1,540 115 952	7 (4) 70	ア 1,521百万円 イ ・発馬機作業及び機材輸送業務 ウ なし
競馬セキュリティサービス㈱ 【平成 4 年 11 月設立】 東京都港区西新橋 3-2-1 代表取締役社長 峯島 善弘 100,000千円 0% (子会社を含めた議決権の所有割合 100%)	<ul style="list-style-type: none"> ・総合警備保障業務 ・労働者派遣業務 	3,523 147 2,328	5 (3) 110	ア 3,089百万円 イ ・諸施設の常駐警備業務 ・競馬開催に係る警備業務、案内業務及び競馬開催補助業務 ウ なし

3. 関連一般社団法人等の名称、住所、基本財産、事業内容、役員数、代表者の氏名、職員数及び日本中央競馬会との関係

関連一般社団法人等の名称・住所 代表者の氏名 基本財産	主な事業内容	年間収入 (R1 決算額)	役員数 (うち常勤) 従業員数	競馬会との関係 ア 年間収入中の競馬会支出額 (R1 実績) イ 競馬会の業務との関係及び 競馬会との重要な取引の概要 ウ 競馬会役員の兼任状況
(公財)競走馬理化学研究所 【昭和 40 年 8 月設立】 栃木県宇都宮市鶴田町 1731-2 理事長 安齊 了 1, 029, 896 千円	<ul style="list-style-type: none"> 競走馬に施用される薬品及び薬剤の検査及び研究 騎手に施用され、又は騎手を使用する薬品及び薬剤の検査及び研究 馬の親子判定及び個体識別に係る検査及び研究 農畜産物等に使用される薬品及び薬剤等の検査及び研究 	(百万円) 1, 542	(人) 6 (3) 56	ア 1, 149 百万円 イ 「日本中央競馬会競馬の施行等に関する規約」に定める競走馬に係る薬物検出機関 <ul style="list-style-type: none"> 競走馬薬物検査業務 薬物検査法の開発に関する研究委託業務 ウ なし
(公財)中央競馬馬主社会福祉財団 【昭和 44 年 10 月設立】 東京都港区虎ノ門 1-2-10 理事長 畑山 光伸 5, 509, 716 千円	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉を目的とする事業に対する助成 国又は地方公共団体が後援等を行っている公益事業に対する助成 中央競馬関係者の福利厚生の上向のための事業 	605	11 (1) 6	ア なし イ 競馬会が馬主に交付した競馬賞金の一部を使用してその事業を実施 ウ 理事(非常勤) 後藤 正幸(競馬会理事長) 理事(非常勤) 木所 康夫(競馬会常務理事)
(公財)競馬保安協会 【昭和 46 年 5 月設立】 東京都港区新橋 4-5-4 理事長 宮本 和夫 10, 000 千円	<ul style="list-style-type: none"> 競馬の公正確保のために必要な調査並びに情報及び資料の収集 競馬の公正確保のために必要な研究 	1, 620	5 (5) 143	ア 1, 475 百万円 イ 競馬の公正確保に必要な調査等を実施 ウ なし
(公財)馬事文化財団 【昭和 51 年 4 月設立】 神奈川県横浜市中区根岸台 1-3 理事長 小林 善一郎 1, 750, 741 千円	<ul style="list-style-type: none"> 馬に関する文献、標本、写真、フィルム等の博物資料(以下「馬事博物資料」)の収集、保管及び展示 馬事博物資料に関する印刷物の編集及び刊行 根岸競馬記念公苑の馬の博物館その他施設の管理運営 	645	6 (2) 25	ア 271 百万円 イ 根岸競馬記念公苑「馬の博物館」、東京競馬場「JRA 競馬博物館」及び「Gate. J」の管理運営等を実施 ウ なし
(公財)軽種馬育成調教センター 【平成 3 年 3 月設立】 北海道浦河郡浦河町字西舎 528 理事長 大平 俊明 1, 000, 000 千円	<ul style="list-style-type: none"> 軽種馬の競走能力の向上等に関する調査研究 育成調教技術者の養成 共同利用に供する育成調教施設の運営・管理 	807	6 (2) 37	ア 490 百万円 イ 日高育成牧場の日高育成総合施設軽種馬育成調教場の管理運営等を実施 ウ なし
(公財)全国競馬・畜産振興会 【平成 3 年 10 月設立】 東京都港区新橋 4-5-4 会長 小西 敏之 1, 000, 000 千円	<ul style="list-style-type: none"> 競馬の健全な発展を図るための事業に対する助成 畜産の振興に資するための事業等に対する助成 	175	7 (2) 10	ア 116 百万円 イ 競馬の健全な発展を図るための事業並びに畜産振興事業等に対する助成等を実施 ウ なし

関連一般社団法人等の名称・住所 代表者の氏名 基本財産	主な事業内容	年間収入 (R1 決算額)	役員数 (うち常勤) 職員数	競馬会との関係 ア 年間収入中の競馬会支出額 (R1 実績) イ 競馬会の業務との関係及び 競馬会との重要な取引の概要 ウ 競馬会役員の兼任状況
(公財)ジャパン・スタッドブック・ インターナショナル 【平成 22 年 12 月設立】 東京都港区新橋 4-5-4 理事長 井上 眞 1, 040, 830千円	<ul style="list-style-type: none"> ・海外における競馬に関する情報の収集及び提供並びに我が国の競馬に関する情報の海外への提供 ・競馬の施行、競走馬の育成に関する海外の競馬関係者との技術の交流 ・軽種馬の登録及び登録証明書の発行 ・軽種馬の登録書その他関係図書の刊行 	(百万円) 838	(人) 6 (3) 37	ア 460百万円 イ 競馬会が必要とする海外における競馬に関する情報の収集・提供及び競馬会の行う馬の登録の基礎となる軽種馬の血統登録等を実施 ウ 監事(非常勤) 横田 貞夫(競馬会理事)
(-財)グリーンチャンネル 【平成 5 年 9 月設立】 東京都江東区永代 1-14-5 理事長 山川 雅典 1, 000, 000千円	<ul style="list-style-type: none"> ・競馬及び農林水産業に関する通信衛星を利用した放送業務 ・競馬、馬事及び畜産に関する番組の制作及びその支援 	4, 444	8 (4) 24	ア 265百万円 イ 通信衛星を利用した中央競馬関連の映像情報に関する番組制作、配信等を実施 ウ なし
(公財)三木山人と馬とのふれあいの森協会 【平成 6 年 6 月設立】 兵庫県三木市別所町高木 三木ホースランドパーク 理事長 仲田 一彦 200, 000千円	<ul style="list-style-type: none"> ・野外、体験活動等による交流事業の実施 ・馬事に関する普及啓発 ・乗馬施設等馬事に関する施設の整備及び維持管理 	514	8 (1) 18	ア 416百万円 イ 兵庫県三木市における乗馬施設等馬事に関する施設の管理運営等を実施 ウ なし
(-財)競馬共助会 【昭和 23 年 9 月設立】 東京都府中市日吉町 1-1 会長 金田 裕之 1, 500, 000千円	<ul style="list-style-type: none"> ・厩舎関係者等に対する福利厚生に関する事業 ・診療所及び厚生会館の運営 ・競馬愛好者の利便に資するための厚生施設の管理・運営 ・競馬文化発展に資する事業 	3, 002	7 (3) 83	ア 586百万円 イ 中央競馬厩舎関係者の福利厚生団体 ウ 理事(非常勤) 木村 一人(競馬会理事)
(-財)日本中央競馬会弘済会 【昭和 39 年 12 月設立】 東京都港区六本木 6-11-1 会長 鈴木 良治 1, 600, 000千円	<ul style="list-style-type: none"> ・畜産に関する調査研究及び資料の収集 ・職員の福利厚生に関する事業 	170	8 (2) 5	ア なし イ 競馬会職員の福利厚生団体 ウ なし

IV 日本中央競馬会が対処すべき課題

1. 閣議決定

(1) 「特殊法人の整理合理化について」(平成7年2月24日閣議決定)

地方競馬との交流競走の拡大を図るとともに、通信衛星による競馬映像情報の提供、地方競馬場における中央競馬の勝馬投票券の発売等をすすめることにより、ファンサービスの改善と地方競馬への支援に努める。また、勝馬投票券の発売・払戻の自動化等により勝馬投票業務効率化に努める。

(2) 「特殊法人等整理合理化計画」(平成13年12月19日閣議決定)

管理経費・競走事業費の削減など更なる事業の効率化を図る。その一環として、公正確保と両立させつつ、一般競争入札等の範囲を大幅に拡大するとともに、関係会社等に対する委託費等を削減する。

(3) 「行政改革の重要方針」(平成17年12月24日閣議決定)

事業

【助成金交付事業】

- 当事業の透明性向上のためにこれまで講じている外部有識者委員会による助成事業の選定・評価、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律の規定の準用等に加え、助成事業の評価結果を全面的に公表する仕組みを導入する。
- 国の畜産関係補助金との役割分担を明確化する。

【中央競馬関係事業】

- 競争性のある契約のうち競馬の公正・中立性の確保上支障のない契約については、そのすべての契約を、平成22年までのできる限り早い時期に競争入札に移行させる。
- 子会社・関係会社の組織・事業の再編・統廃合を実施する。
- 入札結果・経営内容等の情報開示を一層進める。

【その他】

- 外部監査を導入する。

組 織

- 組織運営について、一層の効率化を図るため、次の措置を講ずる。
 - ・ 競馬の公正・中立性の確保上支障のない範囲において主務大臣の関与・規制の緩和
 - ・ 内部組織として学識経験者等で構成される中立性を有する機関の設置
 - ・ 当該機関による定量的な経営目標の設定及び業績評価の実施
 - ・ 当該経営目標の公表及び当該業績評価の結果の公表
 - ・ 経営不調時における役員解任規定導入

2. 「特殊法人に関する行政評価・監視結果に基づく勧告（日本中央競馬会）」

（平成 14 年 1 月 18 日総務大臣から農林水産大臣へ勧告）

支出の見直しについて

（1）経費の節減等

- ア) 施設整備の抑制
- イ) 施設利用料の適正化
- ウ) 子会社等との契約の見直し
- エ) 窓口業務の自動化に伴う要員縮減の推進
- オ) 競走事業費の支出の抑制

（2）ウインズの新設の抑制と運営の効率化

（3）抽せん馬制度の見直し

3. 「独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律」の施行に伴う情報公開への適切な対応（平成 14 年 10 月 1 日法律施行）

4. 「ギャンブル等依存症対策基本法」の施行に伴う適切な対応（令和元年 10 月 5 日法律施行）

この事業報告書は、日本中央競馬会法施行規則第 10 条の規定に基づき、記載しています。
なお、日本中央競馬会の事業年度は、1 月 1 日から 12 月 31 日までとなっています。

J R Aの事業活動について

(令和2事業年度)

— J R Aは、毎週走り続けます。 —

(令和2事業年度事業報告書別冊)

はじめに

令和2事業年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が社会・経済等に大きな影響を及ぼしましたが、こうした状況においても、JRAは、新型コロナウイルス感染症の感染予防・拡大防止対策を徹底したうえで、「お客様とともに」「夢と感動とともに」「信頼とともに」「社会とともに」「そして未来へ」の5項目で構成する「経営の基本方針」に沿った事業活動を行ってまいりました。

競馬の開催においては、開催競馬場へのお客様の入場、ウインズ等の営業を大きく制限せざるを得ない状況ではありましたが、全国10か所の競馬場において、令和2事業年度の経営目標の基本目標の一つである、年間288日（36開催）の競馬を着実に実施することができました。

こうした中、競走の分野では、コントレイル及びデアリングタクトが、それぞれ無敗の三冠馬となったことに加え、アーモンドアイが歴代最多となるGI9勝を達成し、日本の競馬史に残る偉大な記録が誕生しました。

また、競馬の公正確保面では、11月に1着入線馬から禁止薬物であるカフェインが検出されたことから、同馬を失格とし当該競走の着順を変更することとなりました。

本報告書では、JRAが令和2事業年度に実施した事業活動について、同事業年度の事業計画の項目毎に取りまとめました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、当初の計画どおりには実行できなかった施策もありますが、一方で、多様な施策を着実に実施したことで、競馬の安定的・継続的な開催、また、ステイホーム等の状況下で楽しんでいただける、電話・インターネット投票を中心としたお客様の参加が図られたものと考えております。

その結果、もう一つの令和2事業年度の経営目標の基本目標である、中央競馬のお客様総数（海外競馬分を含む）については、競馬場やウインズ等へのお客様の入場を大幅に制限したこと等の影響から、延べ1億6,958万人余（対前年比91.4%）と減少しましたが、勝馬投票券の発売金（海外競馬分を含む）については、電話・インターネット投票会員の大幅な増加により3兆4億円余（対前年比：103.0%）となり、9年連続で前年実績を上回りました。

JRAは、令和2事業年度の事業活動の結果を的確にフィードバックし、競馬の魅力を更に向上させるとともに、お客様の獲得と定着化を図るため、引き続き新型コロナウイルス感染症の感染予防・拡大防止対策を徹底しつつ様々な施策を実施してまいります。また、JRAさらには競馬産業全体が安定的かつ持続的に発展していくため、今後ともJRAを取り巻く環境を意識しつつ、競馬の社会的基盤を強化してまいります。

<目次>

○ 新型コロナウイルス感染症に係る諸施策の概要

1. 競馬場・ウインズ等の営業状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 3
2. 競走の実施に係る対応・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 3
3. 新型コロナウイルス感染症対策への支援・・・・・・・・・・ P 4

○ 令和2事業年度事業計画に掲げた項目等の実施概況

1. 魅力ある競走の提供・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 5
2. 競走馬の資質・能力向上等への取組み・・・・・・・・・・ P 7
3. 競馬の公正確保の徹底・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 15
4. 競馬への参加促進及び販売促進・・・・・・・・・・ P 20
5. ホスピタリティの向上・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 34
6. 馬事振興・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 36
7. 持続的な発展に向けた取組み・・・・・・・・・・ P 40

○ 新型コロナウイルス感染症に係る諸施策の概要

JRAでは、「新型コロナウイルス感染症に係る安全な競馬開催のための基本的な考え方」を設定しております。これは政府の専門家会議の「感染症対策の状況分析・提言」等を踏まえ、競馬場・ウインズ等において予防対策として実施すべき基本的事項を整理し、感染症学の専門家より新型コロナウイルス感染症予防の観点から頂戴した意見等を踏まえて作成したものです。さらに、政府や地方自治体の方針や、時々刻々と変化する社会情勢等を踏まえながら、JRA新型コロナウイルス感染症対策本部会議での議論・決定を経て、種々の対策を講じてまいりました。その概要は以下のとおりです。

1. 競馬場・ウインズ等の営業状況

競馬場・ウインズ等では、以下のとおり通常とは異なる体制にて発売・払戻を実施しました。

(1) 開催競馬場

- 2月29日（土）から10月4日（日）まで、お客様の入場をお断りして競馬開催（いわゆる「無観客競馬」）を実施
- 10月10日（土）以降、事前に指定席券を購入されたお客様の入場を再開

(2) ウインズ等

- 2月29日（土）以降、全国のウインズ等での発売及び払戻を取りやめ
- 7月11日（土）以降、発売レースを限定し、営業時間は14時まで、映像放映とオッズ提供は休止するなどの制限を実施したうえで、社会情勢に合わせて地域別、さらには段階的に営業を再開
- 10月10日（土）以降、一部のウインズ等について、段階的に発売レースを全レースに拡大

(3) 勝馬投票券払戻有効期限の延長

- 令和元年12月28日（土）から令和2年2月23日（祝・日）までの間に発売した勝馬投票券の払戻有効期限を一律に11月14日（土）に延長

2. 競走の実施に係る対応

(1) 競走馬の他ブロック競走への出走制限（オープン及び障害競走を除く）

期間：4月18日（土）から5月31日（日）まで

(2) 土曜日と日曜日とで異なる競馬場で騎乗を不可とする制限（障害競走に騎乗する場合を除く）

期間：4月18日（土）から5月31日（日）まで

- (3) J R Aが認定する場所（自宅・ホテル）を「認定調整ルーム」とし、騎乗当日に同所から競馬場への移動を認める措置

期間：4月11日（土）から5月31日（日）まで、
9月11日（土）から再開

- (4) 重賞競走を除く(特指)の取りやめ

期間：4月11日（土）から6月28日（日）まで

3. 新型コロナウイルス感染症対策への支援

中央競馬サークルでは皆様のご理解をいただきながら、以下の新型コロナウイルス感染症対策へ支援に取り組みました。

- (1) 宝塚記念（G I）及びJ R Aアニバーサリー当日の売上げから拠出

- 競馬場、ウインズ等が所在する都道府県を通じた医療機関への支援：35億円
- 広く全国に病院を有する医療関係機関への支援（(独)国立病院機構等）：40億円
- 学生への支援（(独)日本学生支援機構）：5億円
- 社会福祉事業への支援（(福)中央共同募金会）：5億円

- (2) J R Aからの寄付・寄贈

- 競馬場、トレーニング・センター、ウインズ等が所在する市区町村に寄付：13億6千万円
- J R A事業所の近隣医療機関へ医療備品等を寄贈

- (3) 中央競馬サークルからの支援

- 日本騎手クラブからの支援
- 日本馬主協会連合会からの支援
- (一社)日本調教師会からの支援
- (株)J R Aファシリティーズからの支援

○ 令和2事業年度事業計画に掲げた項目等の実施概況

1. 魅力ある競走の提供

項目	内訳	具体的な内容
(1) 開催計画		<ul style="list-style-type: none"> ○ 288日(36開催)の競馬開催を全国10か所の競馬場において実施した。なお、降雪の影響により、第3回中山競馬第2日(3月29日)第3競走以降が中止となったが、続行競馬の開催に向けて的確に対応 ○ より多くのお客様にご参加いただくため、土・日曜日以外の祝日における競馬開催を1月13日(祝・月)、3月20日(祝・金)、9月21日(祝・月)及び11月23日(祝・月)に設定
(2) 重賞競走の改善		
	① 富士ステークスのGⅡ昇格	○ マイルチャンピオンシップ(GⅠ)の前哨戦としての位置付けを明確にするため、富士ステークスをGⅢからGⅡに昇格
	② 開催日割の変更等に伴う実施日の変更	○ 京都競馬場整備工事や東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会等の実施及び3日開催の実施時期の変更等に伴い、一部重賞競走の実施日をおよび実施場等を変更
	③ 競走名を変更する競走	○ 令和元年に死亡したディープインパクトの功績を称え、報知杯弥生賞(GⅡ)を報知杯弥生賞ディープインパクト記念(GⅡ)に改称
(3) サマーマイルシリーズの改善		○ サマーマイルシリーズの更なる充実を図るため、米子ステークス(L)を対象競走に追加
(4) 海外遠征協力金の交付		○ 国内の一流馬の凱旋門賞出走を支援し、併せてJRAのGⅠ競走に出走することを促進するため、協力金を交付
(5) 国内における国際競走への国内外の一流馬の参加促進		○ 年間を通じて国際競走に関する情報提供をパンフレットやウェブサイト等を活用して行うとともに、2月にジャパンカップにかかる褒賞金制度を大幅に

	<p>見直した。一方、世界的な新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、海外駐在員事務所による有力馬関係者に対する招致活動の機会が減少</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ジャパンカップに外国調教馬1頭（フランス）が出走 ○ ジャパンカップ振興策の一環として検討を進めている東京競馬場馬場内国際厩舎の新設について、関係各所（農林水産省動物衛生課および動物検疫所）と防疫面の連絡調整を引き続き実施
<p>(6) 国際的な交流の推進</p>	<p>【外国の競走への中央競馬所属馬の参加実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 外国の競走への中央競馬所属馬の出走を支援し、延べ21頭がアラブ首長国連邦、オーストラリア、サウジアラビア、イギリス、フランス、アメリカ、バーレーン、香港に遠征 ○ J R A所属馬の優勝実績（カッコ内は国名と競走馬名） <ul style="list-style-type: none"> ・サンバサウジダービーカップ（サウジアラビア、フルフラット） ・香港スプリント（香港、ダノンスマッシュ） ・香港カップ（香港、ノームコア） <p>【ワールドオールスタージョッキーズ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 世界的な新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受けて実施を取りやめ

2. 競走馬の資質・能力向上等への取組み

項目	内訳	具体的な内容
(1) 競走馬の育成を通じた取組み		<ul style="list-style-type: none"> ○ 日高育成牧場及び宮崎育成牧場において、サラブレッド市場購買馬（令和元年購買の2歳馬75頭及び令和2年購買の1歳馬75頭）を用いて、育成に関する研究を実施した。また、日高育成牧場に繋養しているサラブレッド繁殖牝馬及びその産駒（生産馬：当歳9頭、1歳9頭、2歳9頭）（※1歳9頭のうち2頭及び2歳9頭のうち2頭は宮崎育成牧場に繋養）を用いて、生産・育成に関する研究を実施 ○ 育成研究に供した2歳馬は、4月に開催したJRAブリーズアップセール（メール入札方式で売却）にて、生産馬7頭を含む75頭を売却 ○ 実践的な技術指導、講習会、ホームページを通じ、生産育成研究及び技術開発によって得られた成果を普及・啓発
(2) 生産育成基盤の強化		<p>【国内生産基盤の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生産者賞の審査・交付認定を実施 ○ 生産育成技術の向上を目的として、(公社)日本軽種馬協会が実施する軽種馬経営高度化指導研修事業に協力 ○ 資質に優れた種牡馬及び繁殖牝馬群の導入や繁殖牝馬流通活性化を目的として、(公社)日本軽種馬協会が実施する優良繁殖馬導入促進事業に協力 ○ 諸団体が実施する国内セリ市場における流通促進及び東南アジア諸国への内国産馬の流通促進に協力 ○ 関係部署及び各団体で構成される「海外流通促進連絡協議会」に参加し、情報提供等のサポートを行う等、日本産馬輸出体制づくりを支援 <p>【生産育成に関わる人材養成】</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生産育成調教技術者の養成を目的として、(公財) 軽種馬育成調教センターが実施する育成調教技術者養成事業、(公社) 日本軽種馬協会が実施する軽種馬生産育成技術者養成推進事業に助成 ○ 生産育成牧場への若手就業者不足の対応策として、(公社) 競走馬育成協会が実施する生産育成牧場への就業者参入促進事業に協力
<p>(3) 競走馬の保健衛生対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 競走馬診療所に高度医療機器を整備し、最適かつ高度な獣医療を提供 ○ スポーツ科学、スポーツ障害、先端獣医療、伝染病対策などに関する研究として11課題を実施 ○ 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構・動物衛生研究部門との共同研究により、「馬の病原細菌における薬剤耐性機構の解析」等の2課題を実施 ○ 軽種馬生産地における疾病などの諸問題を解決する調査研究として、「競走馬の生産・育成技術及び若馬の疾病に関する調査研究」を実施 ○ 大学等の外部研究機関への委託により、「高強度インターバルトレーニングがサラブレットの骨格筋に与える影響に関する研究」等の8課題を実施 ○ 研究成果の普及及び学術交流を目的として、学会・講演会における発表や学術誌への論文投稿を行うとともに、成果を活用した技術指導を実施 ○ 競馬サークルへの研究成果の普及を目的とし、11月24日に「第62回競走馬に関する調査研究発表会」を開催 ○ 生産地への研究成果の普及、生産者の研究ニーズの把握を目的とし、10月15日に「第48回生産地における軽種馬の疾病に関するシンポジウム」を開催

<p>(4) 競走馬の事故防止対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 競走馬の事故発生状況を随時調査・分析するとともに、厩舎関係者の事故防止に対する意識の向上を目的として啓発活動を実施 ○ 年間を通じて調教施設及び馬場の保全管理を実施 ○ 事故防止に関する調査研究として「繫靱帯脚炎症例の腱内血管に関する調査研究」等を実施 ○ 昨年まで実施した「馬場柵等付帯施設の安全性向上に関する研究」により開発された、より安全性を向上させた馬場柵を競馬場に導入
<p>(5) 競走馬の暑熱対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 夏季競馬開催における競走馬の暑熱対策として、装鞍所・下見所・待避所ミストや馬用冷却シャワー等の設備を設置するとともに、装鞍所集合時刻の変更や下見所周回時間の短縮等の制度改善を実施 ○ 競走馬の熱中症予防に資する調査研究を行うとともに、厩舎関係者への啓発活動を実施
<p>(6) 防疫体制の整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「日本中央競馬会競走馬伝染病防あつ規程」に基づく入厩検疫、定期検査及び予防接種を実施するとともに、環境衛生対策、疫学調査、ワクチン備蓄等の防疫措置を実施 ○ 家畜伝染病予防法で定められた「飼養衛生管理基準(馬)」に基づいて、JRA施設内の衛生管理を実施 ○ 良好な環境かつ円滑な海外遠征が可能となるよう、栗東トレーニング・センターの輸出検疫厩舎を増築 ○ 所轄官庁の指導に基づき、国際交流競走に参加する外国馬、及び海外遠征する日本馬の輸出入検疫に付帯する業務を実施 ○ 国際交流競走へ円滑に出走できるよう家畜衛生条件の締結や遠征環境の整備に向けて、所轄官庁と

	<p>協議</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生産育成地における疾病蔓延防止及びJ R A施設内への疾病侵入阻止を目的とし、(公社)中央畜産会が実施する「馬伝染性疾病防疫推進対策事業」を通じて、J R A施設入厩前の育成馬や繁殖牝馬、乗用馬等を対象とした予防接種（馬インフルエンザ、日本脳炎、破傷風、馬鼻肺炎）を推進 ○ 馬伝染性子宮炎の国内清浄化の達成を受け、(公社)日本軽種馬協会が実施する「馬伝染性子宮炎自衛防疫普及事業」を通じて、清浄化後の疫学監視を推進 ○ 馬伝染性貧血の国内清浄化の達成を受け、(公社)中央畜産会が実施する「家畜防疫・衛生指導対策事業」を通じて、清浄化後の疫学監視を推進 ○ 「生産地における軽種馬の疾病に関するシンポジウム」やトレーニング・センター周辺牧場との防疫協議会を開催し、防疫体制の強化を推進 ○ 国内の防疫体制の強化を目的とし、競走馬総合研究所において、馬ピロプラズマ病診断用I F Aプレートの作製及び抗原性の検証、馬伝染性貧血国内清浄性確認のためのサーベイランス体制の構築、馬鼻肺炎生ワクチンに対する血清中和抗体応答調査、自家調整抗原による鼻疽血清学的試験の検討、海外流行馬インフルエンザウイルスに対するワクチンの評価及びO I Eリファレンス・ラボラトリー認定取得に向けた取組みを実施 ○ 国内外の伝染病情報や飼養管理に関する情報を軽種馬防疫協議会へ提供するとともに、「馬飼養衛生管理特別対策事業」における講習会等を通じて、馬防疫思想の普及を推進
(7) 競走関連施設の充実	【美浦トレーニング・センター厩舎改築工事】

	<p>○ 美浦トレーニング・センターは昭和53年に開場し、他の施設と同様、厩舎についても老朽化が進んでいるため、第1期工事を平成27年11月に着工、平成29年4月に竣工、第2期工事を平成30年12月に着工、令和2年4月に竣工</p> <p>【美浦トレーニング・センター坂路馬場改造及び南Eコース新設工事】</p> <p>○ 質の高い調教施設を提供するため、美浦トレーニング・センター坂路馬場改造及び南Eコース新設工事を令和2年4月に着工、令和5年8月に部分竣工。令和5年12月に最終竣工を予定</p> <p>【栗東トレーニング・センター輸出検疫厩舎改築工事】</p> <p>○ 競走馬の海外遠征を円滑にするため、栗東トレーニング・センター輸出検疫厩舎を改築することとし、令和元年7月に着工、令和2年9月に竣工</p> <p>【京都競馬場整備工事（馬場工区）】</p> <p>○ 馬場の路盤や付帯設備を更新するため、京都競馬場整備工事（馬場工区）を令和2年9月に着工、令和5年3月に竣工予定</p> <p>【京都競馬場整備工事（厩舎工区）】</p> <p>○ 老朽化が進んでいるため、厩舎、競走馬診療所、検体採取所及び装鞍所を改築することとし、令和2年11月に着工、令和4年11月に竣工予定</p>
<p>(8) 馬主活動の促進</p>	<p>【新規馬主開拓】</p> <p>○ 馬主活動を各種媒体でPRするとともに、競馬場等で配付している『馬主登録ガイド』を更新</p> <p>【既存馬主の活動促進】</p> <p>○ GI開催競馬場において出走記念昼食会を実施（新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、高松宮記念以降は中止とし、記念品の贈呈に変</p>

	<p>更)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 50年以上馬主登録を継続している馬主に対し、永年馬主表彰を実施 ○ 所有馬を初めてJRAの競走に出走させた馬主に対し、記念品を贈呈 ○ 新規馬主競馬観戦会を実施 ○ 馬主向け動画コンテンツ『馬学講座』を制作 <p>※ なお、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、4月以降に予定していた観戦会や見学会等は中止した。</p> <p>【共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 馬主情報ホームページの運用 																
<p>(9) 厩舎運営の活性化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各調教師からの貸付馬房数の申請受付と成績査定を行ったうえ、3月4日付で栗東トレーニング・センターでは1,956馬房を、美浦トレーニング・センターでは1,946馬房をそれぞれ貸付け ○ 事業年度途中の調教師の勇退等に伴い、トレーニング・センターにおける定期貸付け及び臨時貸付けを適正に実施 ○ 調教助手・厩務員（調教厩務員を含む）の承認等に伴う、令和2年度末の状況 <p>◇調教助手</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>令和元年度末</td> <td>1,694名</td> </tr> <tr> <td>新規に承認した者</td> <td>60名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(栗東34名、美浦26名)</td> </tr> <tr> <td>令和2年度末現在</td> <td>1,704名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(栗東948名、美浦756名)</td> </tr> </table> <p>◇厩務員</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>令和元年度末</td> <td>658名</td> </tr> <tr> <td>新規に採用された者</td> <td>16名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(栗東0名、美浦16名)</td> </tr> </table>	令和元年度末	1,694名	新規に承認した者	60名		(栗東34名、美浦26名)	令和2年度末現在	1,704名		(栗東948名、美浦756名)	令和元年度末	658名	新規に採用された者	16名		(栗東0名、美浦16名)
令和元年度末	1,694名																
新規に承認した者	60名																
	(栗東34名、美浦26名)																
令和2年度末現在	1,704名																
	(栗東948名、美浦756名)																
令和元年度末	658名																
新規に採用された者	16名																
	(栗東0名、美浦16名)																

		<p>令和2年度末現在 638名 (栗東222名、美浦416名)</p> <p>○ 厩舎制度の改善に向けた(一社)日本調教師会の取組みを支援</p>
(10) 厩舎関係者の養成等		<p>○ 騎手課程においては第36期生4名が卒業</p> <p>○ 令和2年度末現在の在校生徒数は25名(内訳/37期9名・38期8名・39期8名)</p> <p>○ 厩務員課程においては56名が卒業</p> <p>○ トレーニング・センターにおける研修計画の実施及び、厩舎関係者との意見交換及び検証結果等を踏まえた次年度研修計画を策定</p> <p>○ 新規騎手免許取得者に対し、免許取得後に必要な知識を習得するための研修を実施</p> <p>○ 中央・地方所属の見習い騎手による「ヤングジョッキーズシリーズ」を実施</p>
<p>《参考》地方競馬との交流競走</p>		
	① 地方競馬指定交流競走	<p>○ 地方競馬において、ダート交流重賞競走として40競走(11主催者)が実施され、全ての競走に延べ202頭の中央競馬所属馬が出走し、33競走で優勝</p> <p>○ 地方競馬における条件交流競走は95競走(13主催者)が実施され、延べ525頭の中央競馬所属馬が出走</p> <p>○ 本賞金総額の50%(九州産馬限定競走は90%)を上限として交流競走協力金を交付</p>
	② 認定競走	<p>○ 地方競馬において、182競走(10主催者)の認定競走を実施した。なお、全ての主催者において、上位に格付けされた競走を認定競走として実施(北海道においてのみ従来の新馬・未勝利クラスの認定競走も併せて実施)</p> <p>○ 本賞金総額の90%を上限として認定競走協力金</p>

		を交付
	③ 中央競馬指定交流競走	<ul style="list-style-type: none"> ○ ダート重賞15競走を中央競馬指定交流競走として実施し、そのうち2競走に地方競馬所属馬が延べ6頭出走 ○ 芝のG I競走とそのステップ競走を中央競馬指定交流競走として実施した。ステップ競走には6競走に地方競馬所属馬が延べ7頭出走（G I競走には地方競馬所属馬の出走なし）
	④ 中央競馬特別指定交流競走	<ul style="list-style-type: none"> ○ 認定競走の優勝馬及び取得賞金要件を満たした地方競馬所属馬が出走できる中央競馬特別指定交流競走には、2歳馬の競走では11競走に延べ27頭、3歳馬の競走では11競走に延べ13頭、3（4）歳以上馬の競走では18競走に延べ19頭の地方競馬所属馬が出走

3. 競馬の公正確保の徹底

項目	内訳	具体的な内容
(1) 登録・免許業務及び制裁等の厳正な実施		<p>○ 登録及び免許の実施状況（※国際交流競走、国際騎手招待競走及び地方競馬との指定交流競走は除く数）</p> <p>◇馬主登録</p> <p>令和元年度末 2, 568名 （うち個人2, 181、法人330、組合57）</p> <p>新規登録 135名 （うち個人114、法人18、組合3）</p> <p>登録抹消 104名 （うち個人91、法人7、組合6）</p> <p>令和2年度末現在 2, 599名 （うち個人2, 204、法人341、組合54）</p> <p>◇競走馬登録</p> <p>令和元年度末 8, 803頭 新規登録 5, 330頭（うち再登録301頭） 登録抹消 5, 222頭</p> <p>令和2年度末現在 8, 911頭</p> <p>◇服色登録</p> <p>令和元年度末 1, 978件 新規登録 134件 登録抹消 108件 令和2年度末現在 2, 004件</p> <p>◇調教師免許</p> <p>令和元年度末 190名 免許取消者 1名 免許不更新の者 2名 令和2年度免許者 195名 〔前年度からの更新187名、新規8名〕 ※その後、免許取消者1名</p>

	<p>令和2年度末現在 194名</p> <p>◇騎手免許</p> <p>令和元年度末 138名</p> <p>免許取消者 1名</p> <p>免許不更新の者 1名</p> <p>令和2年度免許者 140名</p> <p>〔3月1日付 更新136名、新規4名〕</p> <p>※その後、免許取消者5名</p> <p>令和2年度末現在 135名</p> <p>○ 外国人騎手の短期免許について、令和2年度は6名（延べ7名）に臨時試験による短期免許を交付</p> <p>○ クラブ法人への対応として、金融商品取引法関連法令に基づく登録業者の指導を監督官庁との連携のもと実施</p> <p>○ 制裁等の厳正な実施</p> <p>◇公正確保の維持</p> <p>「公正確保」は、競馬に対する社会的信用を維持するうえでの根幹となるものであることから、公正確保上の対応が必要な事案に関して調査等を実施するとともに、厩舎関係者に対し適宜指導を行う等主催者として最大限の努力を傾注</p> <p>令和2年度は、不正事案は発生せず</p> <p>不正事案未然防止体制を強化するため、中央・地方問わず競馬関与禁止・停止の処分を科された後、その処分が解除された者について、一律でJRAの業務区域内の立入りを一旦拒否し、JRAへの接触状況を把握できる体制とした</p> <p>◇騎手・調教師に対する制裁</p> <p>競馬開催における騎手に対する制裁は、戒告・過怠金が663件（うち、地方競馬における戒告が1件）、騎乗停止が36件（うち、海外競馬にお</p>
--	---

	<p>ける騎乗停止が2件)。中央競馬における騎乗停止処分の内訳は、進路の取り方によるものが33件(うち、第1着から第3着までに入線した馬にかかるものが20件)、その他が1件</p> <p>競馬開催における調教師に対する制裁は、戒告・過怠金が25件(うち、地方競馬における戒告が1件)</p> <p>◇研修会等の実施</p> <p>競馬の公正、安全及び円滑な実施に資するため、制裁点数制による騎手の再教育(延べ15名に対して実施)を実施</p> <p>◇騎手ドーピング検査の実施</p> <p>騎手の健康保護及び競走の安全を図るため、「騎手の薬物使用等に関する検査実施要綱」に基づき、ドーピング検査を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により回数を減じて実施(尿検体を用いた理化学検査40件→8件、呼気検体を用いたアルコール検査48件→8件)</p>
<p>(2) 競馬に対する信頼の確保に向けた取組み</p>	
<p>① 薬物の不正使用事案等の未然防止</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日本中央競馬会競馬施行規約第58条に規定される理化学検査を適正に実施し、また、当該検査機関である(公財)競走馬理化学研究所が実施する競馬の公正確保に関連する事業に協力 ○ 競馬の公正な施行を確保するため、厩舎地区などの業務エリアにおける警備を万全な体制で実施 ○ 4月に栗東トレーニング・センター厩舎地区内に防犯カメラを導入したが、11月に禁止薬物陽性事案が発生したことを受け、厩舎改築終了後(令和7年以降)に予定していた美浦トレーニング・センターにおける防犯カメラの導入時期を前倒しする

		<ul style="list-style-type: none"> ○ 滞在型競馬場である札幌および函館競馬場は、令和3年度の開催前までに設置が完了するよう工事が進行中、小倉競馬場は令和4年度の開催前までに設置が完了予定 ○ 禁止薬物に関する取組み <ul style="list-style-type: none"> ◇ 7月に発生した規制薬物（ジクロフェナク）陽性事案について、当該馬の管理調教師に対して処分を行った ◇ 11月に発生した禁止薬物（カフェイン）陽性事案では、陽性確定後、直ちに当該馬の失格処分を裁定委員会により決定し、併せて当該馬に出走停止の処分を科した。また、速やかに警視庁府中警察署に届出を行い、その指導の下で各種検査および調査を行った（令和2年末時点で、警察の捜査は継続中）。再発防止策として、厩舎関係者に対して厩舎内で禁止薬物が混入するリスクを改めて確認するよう指導し、併せて薬物事故を防止するための厩舎管理について、適宜指導を行う体制を強化 ◇ 禁止薬物陽性事案が発生した際に迅速な対応をとるためには、捜査機関との密接な協力関係が必要となることから、警察関係者に対して禁止薬物に関する説明会を実施
	<p>② 反社会的勢力排除への取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 競馬の公正な施行を確保するため、厩舎地区などの業務エリアにおける警備を万全な体制で実施 ○ お客様の安全確保及び場内外の秩序維持のため、関係機関と連携し、競馬の公正を阻害するおそれのある者の発見と排除を徹底
	<p>③ 自主警備体制の整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自主警備を万全な体制で実施するうえで、警備体制の策定にあたっては、「警備体制に関するガイドライン」に基づき、来場者の安全確保を前提とした

		<p>うえで、効率的な配置で実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、入場時の検温や手指消毒の徹底、三密防止に係る啓発を実施
(3) 審判関係業務の改善等		<ul style="list-style-type: none"> ○ お客様の関心が高く説明が必要と思われる事象については、引き続き裁決レポートを積極的に作成し、ホームページでお客様へ情報を提供 ○ 降着・失格に関する判断基準をはじめとした裁決業務についてお客様の理解を深めてもらうため、引き続きホームページやレーシングプログラム等の媒体を活用し周知した。また、専門職職員のテレビ番組やJRA公式ツイッター等の媒体への出演を通じ、お客様の審判関係業務への理解を醸成 ○ 国際協調に関しては、IFHA「競馬ルール（裁決事項）の調和に関する委員会」（オンライン会議で実施）に出席し、諸外国の裁決担当者と意見交換を行い、日本が検討すべき課題についてJRAの裁決担当者間で協議した。ワールドベストレースホースランキング会議（オンライン会議で実施）に出席した。各国のハンデキャッパーと適宜協議を重ね、2020年度の競走馬の世界ランキングを決定 ○ 地方競馬との協調に関しては、地方競馬全国協会と情報連絡会議を実施し、裁決業務などに関する課題について協議・検討を実施

4. 競馬への参加促進及び販売促進

項目	内訳	具体的な内容
(1) プロモーションの展開		
	① 広告プロモーションの展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 競馬の認知拡大やイメージ向上、興味喚起を図るためのプロモーション「HOT HOLIDAYS！」をこれまでのキャスト（松坂桃李・柳楽優弥・高畑充希・土屋太鳳・中川大志・葵わかな）で展開 新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、上半期はTVCMをブランドCMに差し替え、下半期はテーマを幅広い競馬の楽しみ方を訴求する内容に変更し放映 ○ レースの迫力や競走馬の躍動感・美しさ等、競馬の奥深さやロマンを訴求するブランド広告「夢の第11レース」及び「a beautiful race」を継続展開したほか、新たなブランド広告として競馬と日常のつながりを描いた「あしたのために、競馬はある」を制作（放映は令和3年より）
	② G I 競走等のプロモーション	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主にG I 競走を告知するため、TV・新聞のメディアを活用した広告を実施 また、社会情勢を鑑み、自宅等で楽しんで頂けるWEBコンテンツや他業種とのコラボレーション企画を実施 ○ 例年開催している「有馬記念フェスティバル」は、お客様の招待を取りやめ、厩舎関係者が参加しない形式で公開枠順抽選会を開催し、その模様をテレビで生中継 ○ 競馬未経験層をターゲットとした「Umabi」サイトにおいて、日本ダービーでは「機動戦士ガンダム」、宝塚記念では「Fate／Grand Order」、有馬記念では「ウルトラマン」とのコラボレーション企画を実施

<p>③ 海外競馬のプロモーション</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各主催者と契約を締結し、発売対象レース全てをグリーンチャンネルで放送 ○ 発売対象レースに関して、主催者等を通じて入手した出走馬データを速やかにマスコミへ提供することにより、お客様への正確な情報提供を実施 ○ 海外競馬に対するより一層の興味喚起や理解醸成を図るため、海外競馬の魅力に触れる機会を拡大する番組を提供 ○ お客様の注目度の高い「凱旋門賞」「香港国際競走」に合わせて、新聞やWEBで広告を展開し、海外競馬発売の認知向上や参加促進に向けたプロモーションを展開
<p>④ その他WEBサイトの展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前年に引き続き「Umabi」サイトを運用するとともに、人気タレント及び人気コンテンツを活用した企画やSNSによる競馬情報発信等のプロモーションを通年で展開
<p>(2) 広報活動の展開</p>	
<p>① 競馬中継の安定的な提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ テレビ（地上波・BSデジタル）・ラジオによる競馬中継は、お客様にレース映像・情報を提供する重要な役割を果たしていることから、競馬中継を安定的に提供することや番組内容の充実について、各局との協議・連携を継続的に実施 ○ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止策として発売事業所での映像提供を実施しなくなったことへの対応として、グリーンチャンネルの競馬中継番組をノースクランブル（無料）で放送 ○ 日曜日のメインレース時間帯におけるBSフジの競馬中継は、年39回実施
<p>② パブリシティ活動の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 競馬に関する話題性を喚起するとともに、競馬に関連した紙面の充実等を図るため、マスメディアへのきめ細かなパブリシティ活動を実施したことで、

		<p>牝牡での無敗の三冠達成やアーモンドアイのJRAのGI最多勝達成などの話題が中央競馬関連記事として数多く掲載された他、ニュースやワイドショーなどの放送メディアでも同様の話題が頻繁に取り上げられ、広く世間一般に対して「競馬」をアピールできた</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「優駿」などの各種出版物により、的確かつ時宜を得た内容の情報提供をマスコミ及びお客様向けに実施 ○ JRA賞授賞式などの開催を通じて、競馬への理解促進やイメージアップに貢献 ○ JRAの認知度向上や競馬に関する話題喚起を図るため、競馬初心者からコアファンまで各層を対象としたミニ番組を年間通じて提供するとともに、春秋のGIシーズンの盛り上げを図るミニ番組や、在宅での競馬の楽しみ方を紹介する特別番組を放送 ○ 競馬に関する話題喚起を図るため、三冠挑戦を取り上げた特別番組や2020年の競馬を振り返る特別番組を提供した。また、GI競走の参加促進を図るため、バラエティ番組・スポーツ番組・情報番組等でパブリシティを実施
(3) 競馬場・ウインズ等の活性化		
	<p>① 多様なお客様層に応じたアプローチ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 既存のお客様により競馬を楽しみいただくとともに競馬に馴染みのない方々にもご参加いただけるよう、多彩なお客様サービスイベント等、お客様のニーズを踏まえた以下の各種施策を実施（新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により一部の施策は中止） ◇ 「HOT HOLIDAYS！」と連動した競馬場イベント「スペホリ」は、すべて中止

		<p>◇ 各競馬場でG I 週を中心に実施予定であったタレントによるトークショーやファミリー向けイベント等は、2月29日以降全て中止</p> <p>◇ 女性のお客様の獲得と定着化 全開催日・全競馬場で実施予定であった「UMAJO SPOT」は、2月29日以降の運用を全て中止、一方でWEBや人気ファッション誌等を活用し競馬との接点を創出</p> <p>◇ サマーシリーズの振興を目的に、優勝騎手、競走馬を当てるクイズ懸賞を軸としたキャンペーンを実施した。懸賞はWEBを活用したオープン形式で実施し、幅広い層の興味喚起を実現（延べ226,146通（対前年比507.6%）の応募を獲得）</p> <p>◇ 「お年賀タオル」（1月5日、22.3万枚）、「2020年JRAオリジナルカレンダー」（12月9日、40万部）を配布した。なお、オリジナルカレンダーについては、有馬記念ファン投票と連動したプレゼント企画とした。</p> <p>◇ JRAの公式プログラムとして、「レーシングプログラム」を、無観客競馬の期間を除き安定的に発行し、お客様へ有益と思われる各種情報を提供した。特に注目度の高いレースとなった秋華賞、菊花賞、ジャパンカップ、有馬記念当日には特別カラー版を制作した。また、海外競馬の発売、ヤングジョッキーズシリーズ開催等のトピックに合わせて、カラーの特別記事を掲載。</p> <p>◇ 宝塚記念及び有馬記念において「ファン投票」を実施した。有効投票件数はそれぞれ156,451件（前年比130.8%）、311,105件（同175.8%）</p>
--	--	--

<p>② 来場のきっかけ作り</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 来場したお客様を対象としたプレゼント企画「HOLIDAYS！チャンス」を全競馬場全開催日に実施予定であったが、2月29日以降は中止 ○ JRA施設外を中心に実施予定だったターフィーのグリーティングは、札幌雪祭りを除いて中止となったが、競馬初心者向けWEBサイト「TURFY LAND」をリニューアルし、新たなコンテンツを加えるなど競馬との接点を創出 ○ 競馬場の入場料を無料とする「フリーパスの日」を小倉競馬場において女性を対象に実施（2月15日）。 ○ 有料駐車場がある9競馬場において、来場車両の抑制及びグループ来場促進のため、「駐車場あいのりキャンペーン（41日間）」を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の防止対策や入場再開の状況を踏まえ、2月以降実施を取りやめ（実施4日間） ○ ウインズにおいて、地元企業とのコラボレーション（ウインズ錦糸町、ウインズ立川、ウインズ難波等）、地元警察署とのコラボレーション（エクセル浜松）などを通じて、ウインズの認知度向上を推進する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により取りやめ ○ 一方、来場のきっかけ作りとは趣旨が異なるが、感染症対策として利用可能なご当地ターフィーのオリジナルマスクケースやウェットティッシュなどのグッズを製作し、来場されたお客様にご利用いただく等の施策を一部事業所で実施
<p>③ ウインズ・デー等の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 8月22日（土）・23日（日）を「ウインズ・デー」として、全国のウインズ・エクセル・パークウインズにおいて、日頃からご愛顧いただいているお

		<p>お客様への感謝イベントを同日に統一感を持って実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により取りやめ</p> <p>○ 開設後節目の年を迎えるウインズ等での記念イベントやプロモーションを実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により一部を除き実施しなかった。</p>
(4) UMACA投票の展開		
	<p>① UMACA投票・UMAポートの導入</p>	<p>○ 専用ICカード「JRA-UMACA」を用いることによって「現金レス」「馬券レス」でこれまで以上に便利に勝馬投票券をご購入いただけるキャッシュレス投票システム「UMACA投票」を、令和2年は19事業所において新たに運用を開始し、全国の競馬場及び場外発売所（除くライトウインズ阿見、りんくうタウン、ウインズ水沢、盛岡、宮崎、エクセル伊勢佐木及び委託場外）合計42か所で運用</p> <p>○ オッズ提供やJRA-UMACAによる投票照会等の機能を持つ情報照会端末機「UMAポート」（ウマポート）を、令和2年は19事業所において新たに運用を開始し、全国の競馬場及び場外発売所（除くライトウインズ阿見、ウインズ水沢、盛岡、エクセル伊勢佐木及び委託場外）合計44か所で運用。なお、UMAポートの全国への設置が完了したことにより、オッズボックスはすべての事業所において運用を終了</p>
	<p>② 会員登録体制等の促進</p>	<p>○ UMACA投票の積極的な展開を図るため、導入事業所において、登録会員・利用案内・広報を一体化した取組みを実施した。ただし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、接触抑制の観点から、会員登録のための積極的な勧誘施策は抑制</p>

		<p>(JRA-UMACA登録会員数150,346名 (前年から17,571名増))</p> <p>○ UMACA投票の導入と併せてUMAポートを設置し、オッズプリントサービスのほか、JRA-UMACAを活用したクーポン発券等のサービスを実施</p>
(5) 払戻金施策		
	① 払戻金上乘せ施策	<p>○ 「JRAプレミアム」(1号給付金)については、馬連を対象とした「金杯馬連(1月5日)」、「春の3歳重賞馬連(1月12日～5月30日)」、「ダービーデー馬連(5月31日の全レース)」、「有馬記念ウィーク馬連(12月26・27日の全レース)」、単勝を対象とした「2歳単勝(6月6日～9月6日、9月12日～12月20日)」として、それぞれ対象投票法の売上の5%相当額の上乗せを計708競走で実施(上乗せ総額 3,239,433,090円)</p> <p>○ 通常の払戻金が100円元返しとなる場合に10円を上乗せして110円で払戻する「JRAプラス10」(2号給付金)を、海外競馬を含む「全ての競走の全ての投票法」に対して実施 (532件 上乗せ総額 3,382,427,970円)</p>
	② 払戻率の設定	<p>○ 現行の払戻率(単勝80%、複勝80%、枠連77.5%、馬連77.5%、ワイド77.5%、馬単75%、3連複75%、3連単72.5%、WIN570%)設定以降のお客様の購買動向等を分析し、現在の率の継続を決定</p> <p>○ 弾力的な払戻率の設定の更なる活用施策として、9月21日(第4回中山競馬第5日及び第2回中京競馬第5日)、12月13日(第5回中山競馬第4日、第6回阪神競馬第4日及び第3回中京競馬第4日)、12月20日(第5回中山競馬第6日、第6回</p>

		<p>阪神競馬第6日及び第3回中京競馬第6日)において、全ての競走、全ての投票法を対象に、払戻率を80%に設定する「JRAスーパープレミアム」を実施</p>
<p>(6) 電話・インターネット投票会員の加入促進及び離脱防止</p>		<p>JRAのみならず地方競馬、海外競馬のインターネット投票を安定的に実施し、また、「インターネット」にて購入できること等を広報、宣伝することで即PATを中心にインターネット投票会員の加入を促進</p> <p>◇ 即PAT会員及びJRAダイレクト会員の新規登録を随時実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・即PAT新規登録会員数 896,189名 ・JRAダイレクト新規登録会員数 70,478名 <p>◇ A-PATの新規会員募集を2ヶ月毎に年間6回実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A-PAT会員新規登録者数 7,709名 <p>また、電話・インターネット投票に関する様々な問合せに的確にお答えするため、PATサービスセンター、JRAホームページ、メール等を中心とした案内を年間通じて安定的に実施</p> <p>なお、令和2年12月末時点での電話・インターネット投票会員数は、5,064,402名</p> <p>JRAダイレクトについて、お客様の利便性の向上を目的として、購入限度額等の制限の緩和に取り組んだ。その結果、令和3年1月5日より「1か月の購入額は10万円以内」「1日の購入回数は制限なし」として運用することを決定</p>
	<p>① 電話・インターネット投票会員の加入促進</p>	<p>○ 即PATの「新規加入キャンペーン(4月25日～6月28日)」を実施した。期間中の即PAT新規登録者数は263,232名であったが、キャンペーンのみならず無観客競馬による影響も大きいと考えられる。</p>

<p>② サポート体制の充実</p>	<p>○ 電話・インターネット投票に関する様々な問合せに的確にお答えするため、PATサービスセンターにおける電話対応に加え、メールでの問い合わせ対応やJRAホームページにおけるFAQの充実を図ることで継続、安定的に案内を実施した。また、対面式での問合せ対応充実のため、「電話・インターネット投票サポートデスク」をウインズの閉鎖期間以外はウインズ梅田、ウインズ後樂園に常設し、新規会員登録受付を主に既存会員対応と併せて実施</p> <p>○ 増加傾向にある競馬場、ウインズ等でのインターネット投票に関する質問、問合せ等に職員、スタッフ等がスムーズに対応できるよう、必要かつタイムリーな情報を開催単位で事業所へ適宜提供</p> <p>○ 従来から実施しているスマホ及びパソコンの「新ブラウザ対応」「OSバージョンアップ対応」等についても、日々、変更情報の収集に努め、可能な限りタイムリーに対応することを心掛け、既存投票環境の安定化を推進</p>
<p>③ 電話・インターネット投票会員向けサービスの充実</p>	<p>○ 電話・インターネット投票会員の利用促進、フォローアップを図るため、年間を通じて各種キャンペーンを実施</p> <p>◇ 各種キャンペーン</p> <p>発売金及び参加率向上策として、電話・インターネット投票会員向けキャンペーンを以下のとおり実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Club JRA-Net CAFE SPRING CAMPAIGN (2～3月) ・ ダービー・オークス観戦席プレゼントキャンペーン (3～4月) ・ 即PAT・JRAダイレクト ウェルカムキャンペーン (4～6月)

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本ダービーキャンペーン（５月） ・ オッズ・マスターズ・グランプリ２０２０ ” やっぱり、予想はおもしろい。”（６～７月） ・ Club JRA-Net通信限定プレゼントキャンペーン（６月） ・ 夏の第１レース 和牛プレゼントキャンペーン（７月） ・ 夏競馬 サンクス&ファイト！キャンペーン（７～９月） ・ JRAアニバーサリーキャンペーン（９月） ・ 凱旋門賞キャンペーン（１０月） ・ 三冠最終決戦キャンペーン（１０月） ・ オッズ・マスターズ・グランプリ２０２０～Another Race Mission～（１０～１２月） ・ 有馬記念２０２０キャンペーン（１２月） <p>◇ 会員向けの情報発信</p> <p>年間通じて電話・インターネット投票会員専用サイト「Club JRA-Net」会員向けのメール（Club JRA-Net通信）を送信（年間送信回数３４８回、会員数 約２０９万名）</p> <p>また、特定の条件を満たした電話・インターネット投票会員（約１０６万名）に対し、「JRAからのお知らせ」「令和３年レーシングスケジュール」「地方競馬からのお知らせ」等を１２月に送付し、年末年始、令和３年のJRAへの参加促進策を実施</p>
	<p>④ 電話・インターネット投票会員の利便性の向上</p>	<p>○ オペレーターの定着率向上、迅速な問い合わせ対応等を目的として、PATサービスセンターにおけるオペレーター向けFAQシステム導入に向けた入札を１２月に実施し、令和３年８月頃の本格導入に向けたシステム構築を開始</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ○ 高齢者等のお客様にとってより勝馬投票券を購入しやすいツール等の導入に向け、年間を通じてA I・I V Rの技術動向や一般企業における導入事例等の調査及び情報収集を引き続き実施
(7)	J R A アニバーサリーの実施	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、無観客競馬、かつ、電話・インターネット投票が中心の発売となったイレギュラーな年にあっても、中央競馬をお楽しみ、支えていただいたお客様に対し感謝の気持ちを表す日として、9月21日（祝・月）を「J R A アニバーサリー」と題し、当日の全競走・全投票法の払戻率を「J R A スーパープレミアム」として全て80%に設定するとともに、WEBを活用したイベント等を中心とした各種施策を実施
(8)	販売ネットワークの拡充	<ul style="list-style-type: none"> ○ J R A初のキャッシュレス専用場外として茨城県猿島郡境町に有料先着制の場外である「エクセル茨城境」(境町場外発売所)を令和2年5月9日オープン予定で準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により延期 ○ 12月19日からJ - P L A C E宇部(兵庫県競馬組合)での発売を開始し、地方競馬施設を活用した委託場外は56か所に拡大
(9)	お客様への情報提供の充実	
	① レース映像の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○ より分かりやすく迫力ある映像を提供することにより、お客様サービスを維持向上するため、G I競走当日を中心とした特定の日において、スーパースローカメラ、ヴァーチャルカメラ、車載カメラ等の特殊カメラを増設 ○ お客様の観戦環境の整備と高繊細で迫力ある映像の提供のため、大サイズの4Kテレビモニターを効果的に配置

<p>② J R Aホームページの充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ スマホ版トップページ、指定席予約ページ、馬場情報ページをリニューアルし、馬場情報ページでは新たな指標として芝コースのクッション値を公開 ○ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響による特殊な営業情報を発信するために、「営業最新情報ページ」を制作し、無観客競馬や発売制限、指定席ネット予約などの情報を整理して提供 ○ 注目を集めた三冠最終戦やジャパンカップ、有馬記念など、競馬ファン層をメインターゲットとした特設サイトを制作し、競馬の本質的な魅力と当該レースの情報を織り交ぜて提供した。J R Aアニバーサリー特設サイトでは、著名人やSNSで募集したお客様の競馬アニバーサリーを紹介 ○ 海外競馬特設ページを制作し、海外競馬の基本情報や発売レースに関する映像・情報など海外競馬に参加するための情報を提供 ○ 競馬情報の提供や情報の拡散を目的に、J R A公式Facebookでは競馬情報やキャンペーン情報などの投稿を、女性・若年層のフォロワー数の割合が高いInstagramでは、馬や競馬へのポジティブイメージを持たれる内容を定期的に投稿 ○ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により無観客となった日本ダービーでは、SNSで募集したエールを騎手紹介セレモニーで紹介し、その様子はYouTubeでライブ配信する、双方向コミュニケーションを図る取組みを実施 ○ YouTubeは、レース映像やテレビCM等の定期的な動画掲載に加え、初の試みとしてジャパンカップに出走した3頭の三冠馬の最終追切360度VR映像を掲載し16万回再生を記録 ○ 入場制限下の中山競馬場で行われた9冠馬アー
-------------------------	--

		モンドアイの引退式を、初の試みとしてYouTubeでライブ配信した。2. 2万人がライブ視聴し、僅か3日間で30万回再生を記録
(10) お客様関連施設の充実		
	① 京都競馬場整備工事 (スタンド工区)	○ お客様に快適な環境を提供するために、社会・時代に即したスタンドとして、老朽化したグランドスワン改築及びビッグスワン改修工事を令和2年2月に着工、新スタンドは令和5年3月、ビッグスワンは令和6年3月にそれぞれ竣工予定
	② 中山競馬場スタンド リフレッシュ工事	○ スタンドを継続的に使用するための設備のリフレッシュ及びお客様サービスの向上に資するため、第1期工事を平成29年12月に着工、平成31年2月に竣工。第2期工事は平成30年11月に着工、令和元年8月には馬場内投票所内の「うまキッズルーム」「UP-Seat」が竣工し供用を開始、その他については令和3年11月に竣工予定
	③ ウインズ札幌A館改築工事	○ ウインズ札幌を1館1棟に集約し、事業運営の効率化を図るとともにお客様の満足度向上と新規のお客様の獲得を目指し、令和3年3月に竣工予定。なお、工事に伴い、平成30年6月30日以降はB館とアーバン館で継続して運用
	④ その他	○ お客様の利便性の向上のため、競馬場・ウインズ等の館内諸施設の改善（エスカレーター、内装改修等）のための工事を実施 ○ エクセル田無お客様エリア改修工事、ウインズ立川A館サイン改修・B館改修工事、ウインズ米子美装美化工事を実施した。適切な施工管理を行い、工期どおりに竣工
	(11) その他の取組み	○ QRコードを用いて「マークカードレス」での便利でスマートな勝馬投票券の購入を可能とする「ス

マッピ投票」が利用できる投票機を、令和2年にはUMACA投票機の全国展開により全国43か所（UMACA導入事業所42か所及びライトウインズ阿見）で運用

- これまで勝馬投票券の購入経験のない方に気軽に競馬を体験いただく取組みの一つとして、GI競走をより簡単に購入いただけるマークカード「GIカード」を2月のフェブラリーSから全国的に導入【ブース販売・JRAパーティーキャンペーン】
- また、同様の目的での取組みを予定した、「ブース販売」「JRAパーティーキャンペーン」については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により実施を取りやめ

5. ホスピタリティの向上

項目	内訳	具体的な内容
(1) 接客体制の充実		
	① 接客対応の改善	○ 接客スタッフの意識向上を図るための研修プログラムを策定し、全競馬場・ウインズにおいて継続的に展開
	② インフォメーション機能の充実及びビギナーズセミナー等の実施	○ 開催競馬場において、競馬ビギナーの方やより競馬を深く知りたい方を対象としたビギナーズセミナーを実施（2月23日まで） ○ 開催競馬場において、馬券の種類やマークカードの記入方法等を案内するビギナーズカウンターを設置（2月23日まで）
	③ 外国人来場者への対応	○ 世界的な新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、訪日および在日外国人をターゲットとした来場促進キャンペーン等の実施を取りやめたが、日本ダービー週およびジャパンカップ週にジャパントイムズ紙およびジャパントイムズウェブサイト上において競馬特集記事を掲載し、在日外国人を中心として国内外に日本競馬の魅力を訴求 ○ 開催競馬場における外国人来場者向けサービスの実施も取りやめたが、来年度以降の外国人受け入れ体制整備の一環として、英語版競馬カタログ（Go! Racing）、英語版中央競馬のあらまし（King of Sports）および英語競馬用語集の改定を実施 ○ 日本競馬の認知度を高めることを目的に、G I 競走を中心としたレース映像を海外に配信するとともに、出馬表、過去成績等のデータを提供 ○ 外国語ホームページ（英・仏・中・韓）には、G I 競走を中心とした出走馬情報やデータ等の日本の競馬に関する情報を掲載

		<ul style="list-style-type: none"> ○ 世界的な新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、海外競馬主催者等と連携した競馬主要国における日本競馬プロモーションの実施を取りやめ
<p>(2) 観戦環境等の向上</p>		<ul style="list-style-type: none"> ○ 快適な観戦環境の整備に向けて、競馬場及びウインズにおける施設内の環境美化を推進するため、クリーンキャンペーンを実施 ○ 競馬場及びウインズ等において、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による環境の変化に対応し、お客様に安心して施設を利用していただけるよう検温機器の整備などを実施 ○ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策として、お客様と接触機会を低減するためクリーンキャンペーンを見合わせる一方、競馬場及びウインズ等における施設消毒の徹底やごみの回収に関する指導を実施 ○ 再開したエクセル(エクセルフロア)《田無・石和・広島》の運用については、万が一感染が発生した場合に備え、座席シートごとに利用者の連絡先を聞き取り、感染症が発生した際に保健所等と連携した対応がとれる体制を敷くとともに、ハンドスタンプを中止しリストバンドを活用するなどの感染症対策を実施

6. 馬事振興

項目	内訳	具体的な内容
(1) 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会への協力		
	<p>① 競技運営に関する支援・協力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 令和3年に延期となった東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の円滑な開催に向けて、(公財)東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会等に対し以下の支援・協力を実施 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 会場整備がほぼ整った馬事公苑において、(公社)日本馬術連盟が主催する全日本大会等の馬術競技会を開催し、施設面・競技運営面の各種運用テストを実施 ◇ 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の仮施設及びオーバーレイ工事期間を通じたJRAの不動産等の無償貸付 ○ 馬術の競技力強化のため、(公社)日本馬術連盟が実施する馬術日本チームの競技力強化事業に対する支援を実施 ○ 競技馬の検疫および防疫対応について、農林水産省および大会組織委員会等と協議するとともに、その体制構築に向けた協力を実施 ○ 競走馬総合研究所の検査体制の強化(馬インフルエンザ検査について国際標準規格ISO17025の認定を取得)
	<p>② JRA馬事公苑の整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大会組織委員会が行う仮施設等の会場整備は、大会直前に整備する施設を除き6月に終了 ○ 大会延期に伴い必要となった仮施設の劣化防止・台風対策等の延期対策工事を円滑に実施するため、大会組織委員会に対する協力を実施 ○ 馬術競技会場となる馬事公苑の仮施設・オーバーレイ工事に対する支援の実施
(2) 乗馬の普及		
		<ul style="list-style-type: none"> ○ 各事業所において、一般市民やスポーツ少年団を

	<p>対象とする乗馬指導、初心者を対象とする乗馬教室を開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 馬と直接触れ合う機会を拡充するため、例年実施している「馬に親しむ日」をはじめとする馬事イベントは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により中止 ○ 各競馬場において、「体験乗馬・馬車」「誘導馬によるお出迎え・お見送り」「ポニーとのふれあい」等を実施（2月末まで） ○ 乗馬・馬術競技の魅力を紹介するため、9月からフジテレビにおいてミニ番組「お台場馬術部」を放送 ○ 乗馬人口の拡大を図るため、(公社)全国乗馬倶楽部振興協会、(公財)三木山人と馬とのふれあいの森協会が実施する乗馬普及事業に対して助成
<p>(3) 引退競走馬のセカンドキャリアの促進支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 引退競走馬に関する諸課題への取組みとして、競馬サークル関係者による「引退競走馬に関する検討委員会」を2回開催 ○ JRA馬事公苑（宇都宮）等で引退競走馬を乗用馬等へ転用するための調教（リトレーニング）方法の研究を実施し、管理指針の制作配布を実施 ○ 障害者乗馬やホースセラピーを実施する各団体の活動を支援
<p>(4) 馬術の振興</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ JRA主催大会として、引退競走馬・内国産乗用馬限定の「ジャパンプリーディングホースショー」を開催 ○ JRA馬事公苑（世田谷）が使用できないことに伴い、「関東高等学校自馬競技大会」や「日本乗馬少年団連盟馬術選手権大会」等多くの競技会に東京競馬場を貸与するとともに、大会主催者や大学等馬術部の費用負担増に対する補助を実施

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 馬を取扱う担当職員の技術向上を目的として、J R A馬事公苑の馬術系総合職員による乗馬技術や競走馬の再調教技術に関する各種講習会を実施 ○ 競馬関係者の馬への理解や取扱技術の向上を図るため、馬術系総合職員による講習会を両トレーニング・センター厩舎従業員に向けてリモートで実施 ○ 日本の馬術の振興を図るため、(公社)日本馬術連盟が実施する馬術振興事業に対して助成 ○ 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として、馬や馬術競技の魅力を伝える映像情報をテレビCMやインターネット等で発信
<p>(5) 馬事文化の発展への寄与</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 馬の博物館では、テーマ展として「小さな騎士(ナイト)たち」「生類憐みの日本史～馬から犬まで～」、企画展として「和の匠 浮世絵に生きる馬の風景」、等を開催した。なお、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、春の特別イベント「馬とあそぼうこどもの日」は中止、秋の特別イベント「馬とのつどい2020」は抽選により人数限定の上実施、また、ふれあいイベントも規模を縮小して実施 ○ 競馬博物館では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、多くの企画展を中止せざるを得ない状況の中、「キタサンブラック顕彰馬選定記念展」や「第87回ダービー優勝馬展」などのエントランス展を開催 ○ 「Gate J.」では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、一般のお客様に対して閉館した。一方で、グリーンチャンネル等の映像収録については、十分な対策を条件として会場を提供(新橋)し、GIレース等の盛り上げに寄与できた。

	<ul style="list-style-type: none">○ J R A 賞馬事文化賞の選考にあたっては、書籍・映像・展覧会をはじめ幅広い分野から馬事文化に関わる作品等、約 3 0 0 点を対象に候補作品を絞り、2 度の選考委員会で審議を重ねた結果、『人と共に生きる 日本の馬』（著者：高草操氏）を馬事文化賞に選出○ 日本在来馬 8 種の保存・活用を目的として、(公社) 日本馬事協会が行う「保存活用推進事業」及び(公社) 全国乗馬倶楽部振興協会が行う「在来馬乗用化推進事業」に対して助成
--	--

7. 持続的な発展に向けた取組み

項目	内訳	具体的な内容
(1) 社会貢献活動		
	① 地域社会との連携・協調	<ul style="list-style-type: none"> ○ 関係法令に則り、事業所ごとに各防災計画・マニュアルの整備及び職員他関係者への周知を徹底し、関係者の防災意識の向上を促進 ○ 大規模災害発生時の対策として、競馬場においては有事に備えて帰宅困難となった来場者及び周辺住民の避難を想定し、防災備蓄品を適切に配備・管理した。また、都市部ウインズにおいても、来場者が帰宅困難となった場合を想定し、防災備蓄品を適切に配備・管理 ○ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大を踏まえたうえで、地域の祭りや本部・事業所周辺の幼稚園・保育園等の団体が主催する催しへの人馬（ポニー等）の派遣等を行うなど、「馬」を活用した地域密着型の協力を実施 ○ 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の延期に伴い、東京競馬場において実施予定であった聖火リレーセレブレーションは中止
	② 事業所周辺の整備に関する取組み	<ul style="list-style-type: none"> ○ 競馬開催日の交通対策として、周辺環境に配慮し来場車両を抑制するため、お客様に公共交通機関の利用の呼びかけを実施 ○ 周辺道路の混雑及び渋滞の要因ともなる違法駐車を排除するため、警備ポストを配置するなどの対策を実施 ○ 競馬場・ウインズ等が所在する合計 38 の地方自治体に対して、道路・交通安全施設整備事業、教育・社会福祉施設整備事業、公園整備事業等の合計 376 事業に、総額 53.8 億円の環境整備事業費を交付し、事業所周辺の環境整備事業を実施

<p>③ 畜産振興への支援 (畜産振興事業)</p>	<p>○ 3月及び10月に農林水産大臣の認可を得て、交付金を交付(別表12)</p>
<p>④ 受動喫煙の防止対策</p>	<p>○ 令和2年4月に改正健康増進法が施行されるにあたり、屋内における喫煙施設の点検及び改修、屋外における喫煙場所の移設・閉鎖等を実施、また、職員・従事員などの関係者に対する啓発を実施した。お客様に対して、喫煙マナーに関するポスター掲示などの広報・告知活動を実施</p>
<p>(2) 環境への取組み</p>	
<p>① 資源循環型社会の構築への貢献</p>	<p>○ 「環境基本方針」(令和元年策定)に則り、事業活動に伴う排出物について「3R(排出量の減少・繰り返し使う・再利用する)」の推進、また、リサイクルに供さない排出物については法令や自治体の条例等に沿って適正処理を着実に実施。</p> <p>○ 令和2事業年度は、コロナ禍の影響による無観客開催や場外発売の縮小などに伴い、排出物の総量は64,421t(対前年比94.3%)、また、競馬開催に関する排出物のリサイクル率は54.1%(前年比▲1.2ポイント)</p>
<p>② 地球温暖化防止</p>	<p>○ 各事業所のエネルギー使用量を基にCO₂の排出量を算定し把握するとともに、その排出抑制を目的に策定した「総量削減」の目標を達成するために、全事業所において省エネルギー推進体制を構築</p> <p>○ 電力需要が高い夏季及び冬季においては、別途「省エネ対策」を作成し、関係団体を含む全事業所において重点的な取組みを実施</p> <p>○ 令和2事業年度は、コロナ禍の影響が大きく、CO₂総排出量は73,394t-CO₂/年(対前年比76.6%)</p> <p>○ 再生可能エネルギーへの取組みとして、競馬学校、東京競馬場、中山競馬場などにおいて、温室効</p>

		<p>果ガス排出抑制効果が高い「太陽光発電システム」を運用中</p> <p>○ 両トレーニング・センターの事業運営の安定化及び環境対応に資する目的で、使用済敷料の新たな処理法として「バイオマス発電システム」を導入</p> <p>栗東：平成28年1月着工 令和元年10月竣工</p> <p>美浦：平成30年9月着工 令和5年6月竣工予定</p>
	③ 環境への取組みを通じた地域社会との調和	<p>○ 競馬開催日（事業所営業日）における事業所周辺環境保全のため、周辺清掃、環境汚染防止対策、周辺道路の混雑緩和対策などを適切に実施</p>
	④ 環境マネジメントの推進	<p>○ 理事長を委員長とした「環境委員会」（令和2年より）を中心に、環境への取組みを着実に推進する体制を構築</p> <p>○ 環境関連法令・条例（グリーン購入法、環境配慮契約法、省エネ法等）の遵守</p> <p>○ 環境教育（役職員向け）の継続的实施</p>
(3) 組織の運営等に関する取組み		
	① 情報セキュリティの確保	<p>○ 情報セキュリティ委員会を開催し、情報セキュリティの現状とセキュリティ体制の整備の現状及び今後の方針について確認</p> <p>○ 情報セキュリティリテラシーの向上を図るため、全役職員を対象にeラーニングによる教育及び自己点検を実施したほか、新規採用者（資料配布形式）、新任管理者（ビデオ視聴形式）及び監督者（集合形式）を対象に研修を実施</p> <p>○ 情報漏えいリスクの低減を目的として、全役職員を対象に標的型攻撃メール訓練を実施</p> <p>○ 情報セキュリティ点検として、外部機関によるペネトレーションテストを実施</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 競馬開催に関連する各システムにおいて、ファイアウォール（FW）等のセキュリティ機器を適切に運用し、不正アクセスや情報漏えい等の起こらないセキュリティ体制を維持
② 法令順守と透明性の確保	
i) コンプライアンスに関すること	<ul style="list-style-type: none"> ○ コンプライアンス体制の一層の充実を図るため、役職員が日々守るべき基本的な行動基準を具体化した「コンプライアンス行動指針」の周知徹底に努め、その実践を推進 ○ 役職員に対し継続的にコンプライアンスに関する研修を実施するとともに、コンプライアンス監査・アンケート等によりコンプライアンス体制の現況について確認、点検し、適宜必要な見直しを実施
ii) 個人情報、法人文書等の管理に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各種関係法令・規程等に基づき、個人情報及び法人文書等の厳正な保護・管理を実施するとともに、各種研修・会議において啓発活動を実施、またコンプライアンス監査等を通じ管理体制を強化
iii) 情報公開に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律」に基づく開示請求は7件 ○ 「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」に基づく訂正請求は1件 ○ 「独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律」の規定に基づき、JRAの経営内容等が記載された文書を、引き続きJRAホームページ等を活用して公開
iv) 契約・入札等に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ○ 契約・入札の適正化に向けた不断の点検を行い、契約の一層の競争性・公正性の向上を推進 ○ 契約手続の透明性を確保するため、工事、物品の製造・購入、役務等の入札及び契約に関する情報等について、JRAホームページに随時公開

<p>③ コンピュータ・システムの更新及び全体最適化</p>	<p>○ 各システムの信頼性・安定性を確保するため、以下のシステムについて更新等を実施</p> <p>i) 令和2年に更新等を行い運用開始した主なシステム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ J R A ホームページシステム ・ 屋外表示システム〔制御装置更新：阪神 R C〕 ・ 欧字提供システム ・ 情報照会システム（U M A ポート） ・ 簡易オッズシステム ・ トータリゼータセンタシステム <p>ii) 令和2年に更新等に着手した主なシステム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インフォメーションシステム ・ 統合 D B ・ A L I S 周回コース ・ J R A ホームページシステム ・ データ放送システム(含むパドックビジョン専用番組作成) ・ J R A ダイレクトシステム ・ 即 P A T システム <p>○ システムの効率化、コストの削減を図るため、以下のとおり全体最適化を推進</p> <p>i) 新統合 I T 基盤への個別システム移行</p> <p>ii) 端末仮想化技術（シンククライアント端末）の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 役職員用ノート型シンククライアント端末 ・ 事業所共用端末のシンククライアント化 <p>iii) 全体最適化を推進するその他のシステム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 即 P A T システムの統合、2 拠点化
<p>④ 国際協調及び国際協力の充実</p>	<p>○ 世界的な新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、リモート方式による国際競馬統括機関連盟（I F H A）執行協議会において、常任理事</p>

		<p>国として種々の世界規模の課題について各国・地域代表者と討議し、有効な方策の検討や各国・地域間の意見を調整</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ リモート方式による I F H A の各諮問委員会にもそれぞれの委員が出席し、競馬の国際協調及び発展に向けての各専門分野における協議にも積極的に参画 ○ 2月に南アフリカで開催された第38回アジア競馬会議への出席およびその後リモート出席となったアジア競馬連盟（ARF）執行協議会においてARF副会長国として国際間における課題解決への取組みを推進した。特に薬物規制の強化、ワールドランキングにおける質的管理、海外違法賭事の取り締まり、馬の国際間移動の促進などに向けて実効性を伴う施策を検討 ○ 10月にウェビナー（テーマ：新型コロナウイルス感染症への対応）が3回開催され、第1回に後藤理事長がビデオ出席 ○ 世界的な新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、日本の競馬産業全般を学習するためのARF定期研修、競馬に関する専門的技能等を習得するためのARF専門研修、およびJRA獣医師による獣医技術現地研修等の実施を取りやめ ○ 中国国内の馬産業及び競馬事情については、リモート面談による調査を実施 ○ 世界的な新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により関係者の来日はなかったものの、諸外国との交流の一環として、アメリカ他18の国・地域との交換競走を滞りなく実施
	<p>⑤ 次世代育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 例年実施している獣医系・畜産系学生を対象とした研修（競走馬総合研究所における「馬臨床サマー

		<p>スクール」など)は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により中止</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 競走馬の獣医師を目指す学生を支援することを目的とした奨学金事業を実施 ○ 幼少期から馬への理解を深め、生き物を通じた豊かな人間性の形成に寄与するよう、事業所から実馬を派遣し「小学校出張授業」を実施するとともに、キッザニア甲子園に「ホースパーク」パビリオンを年間を通じて出展(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により3か月間営業休止) ○ 乗馬に取り組む子供たちの目標となる大会として、例年実施している「全国ポニー競馬選手権(ジョッキーベイビーズ)」は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により中止
	<p>⑥ ギャンブル障害への対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ JRAホームページ、ポスター、CM、新聞広告、レーシングプログラム及び勝馬投票券発売機等における注意喚起文の掲載やリーフレット等における知識の普及啓発を継続的に実施した。また、5月14～20日のギャンブル等依存症問題啓発週間において、JRAホームページ等による告知、他種公営競技と連携した啓発ポスターの作成等を実施 ○ JRAインフォメーションデスクにおいてお客様への相談対応を実施した。また、他種公営競技と連携し、中央競馬・公営競技のお客様及びそのご家族のご相談を一元的・専門的に受け付ける相談窓口として「公営競技ギャンブル依存症カウンセリングセンター」を運営 ○ お客様及びそのご家族からの申請により、競馬場・ウインズへの入場を制限する制度及び電話・インターネット投票の利用を停止する制度を実施

		<p>した。また、お客様ご自身で電話・インターネット投票の購入上限額を設定できる制度を実施</p> <p>○ eラーニングを活用した役職員向けの研修を実施</p>
<p>⑦ 勝馬投票に関わる違法行為等の防止対策</p>		
<p>i) ノミ行為、違法インターネット賭事、悪質な競馬情報提供会社による被害等の防止対策</p>		<p>○ ノミ行為・インターネット賭事等の違法行為防止対策として、これらの勝馬投票類似行為が違法であることについて、レーシングプログラムやJRAホームページ等を活用した啓発活動を実施</p> <p>○ 競馬予想に関する特別な情報を提供すると喧伝する一部の悪質な会社による被害を防止するため、情報収集を継続的に実施し、競馬場・ウインズのモニター等において注意喚起を図るビデオを放映したほか、レーシングプログラム等各種媒体にお客様向けの注意喚起文を掲載し、広報・告知活動を強化</p>
<p>ii) 未成年者の勝馬投票券購入防止対策</p>		<p>○ 職員等による指導注意活動を実施するとともに、レーシングプログラム等を活用した広報・告知活動を実施</p>
<p>⑧ その他の取組み</p>		
<p>i) 業務運営の効率化</p>		<p>○ 働き方改革や少子高齢化といった課題に対応するとともに、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響があっても業務運営を滞りなく実施するために、テレワークの導入をはじめとした業務運営の効率化及び労働生産性の向上に向け、新たなICT（情報通信技術）の導入等を実施</p>
<p>ii) 人材育成の充実</p>		<p>○ 職員に対し、個々の更なる能力向上や組織の活性化のため以下の研修を実施</p> <p>◇ 人材育成における中長期的目的達成のための階層別研修</p> <p>◇ 部門・分野によって必要となる高度な専門的知識習得のための専門研修及び業務遂行上で求め</p>

		<p>られる一般的で普遍的な知識・資格習得の機会付与を目的とした一般研修</p> <p>○ 関連団体の職員を対象とした研修等を実施し、JRAについての知識と理解を深めるとともに、JRAグループの一員としての意識を向上</p>
	<p>iii) 経営資源の有効活用</p>	<p>【資産の有効活用】</p> <p>○ ジャパンカップにおけるロンジン社とのパートナーシップを継続し、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による不安定な情勢下にあっても、同社のブランドイメージや競馬をイメージした広告展開でのジャパンカップのPRにより、国際的なスポーツエンターテインメントとしての雰囲気醸成</p> <p>【インターネット投票における地方競馬の受託発売の実施】</p> <p>○ A-PAT会員及び即PAT会員向けに、インターネット投票による地方競馬の受託発売を実施（発売日数233日、発売金約1,490億円）</p>
	<p>※ 栗東トレーニング・センター火災事故への対応</p>	<p>○ 令和2年8月に栗東トレーニング・センターで発生した火災事故を踏まえ、美浦・栗東両トレーニング・センターのすべての厩舎に対して防火設備等の点検を実施するとともに、厩舎関係者に対して防火に関する研修を実施</p>

<別表目次>

- 別表 1 (開催競馬場別開催実績) P 50
- 別表 2 (令和 2 事業年度の各種実績) P 51
- 別表 3 (開催回数の推移) P 52
- 別表 4 (開催日数及び競走回数の推移) P 52
- 別表 5 (出走頭数の推移) P 52
- 別表 6 (お客様総数及び開催競馬場入場人員の推移) P 53
- 別表 7 (発売金の推移) P 53
- 別表 8 (電話・インターネット投票会員数の推移) P 54
- 別表 9 (投票法毎の発売金の構成比の推移) P 55
- 別表 10 (馬主・調教師・騎手・調教助手・厩務員数の推移) P 56
- 別表 11 (国際競走等の状況) P 56
- 別表 12 (特別振興事業について) P 57
- 別表 13 (JRA 賞 受賞馬及び受賞者) P 72
- 別表 14 (地方競馬全国協会を通じた交付金の交付) P 73

1. 開催競馬場別開催実績

	回数	日数	競走回数	出走延頭数	入場人員	発売金額
札幌	2回	14日	168競走	2,028頭	0名	118,402,642,500円
函館	2	12	144	1,757	0	75,456,277,800
福島	3	20	240	3,474	6,487	133,120,648,600
新潟	4	26	312	4,552	4,011	221,401,860,200
中山	5	43	516	7,486	279,957	535,439,509,000
東京	5	45	540	7,779	221,610	632,309,529,200
中京	3	23	276	3,848	9,915	200,385,073,700
京都	4	37	444	5,990	314,374	399,720,422,800
阪神	6	48	576	7,836	40,256	547,533,998,100
小倉	2	20	240	3,377	114,360	128,980,346,500
計	36	288	3,456	48,127	990,970	2,992,750,308,400

2. 競走成績

種別	競走回数				出走延頭数	出走実頭数	1競走平均出走頭数	
	一般競走	特別競走	重賞競走	合計				
平地	2歳	583回	39回	14回	636回	8,601頭	3,409頭	13.5頭
	3歳以上	1,837	743	115	2,695	37,963	8,022	14.1
障害	107	8	10	125	1,563	492	12.5	
合計	2,527	790	139	3,456	48,127	※11,692	13.9	

※ 平地競走と障害競走の両方に出走した馬の数は、231頭

◎ 令和 2 事業年度の各種実績

①開催回数・開催日数	36回・288日
②競走回数	3,456競走（前年実績 3,452競走）
③出走延頭数	48,127頭（前年実績 47,345頭）
④勝馬投票券の発売金	3,000,481,674,200円（対前年比 103.0%）
⑤開催競馬場の入場人員	990,970名（対前年比 15.9%）※ ¹
⑥お客様総数※ ²	169,588,739名（対前年比 91.4%）

※¹うち女性入場人員は148,600名（対前年比13.7%）。全体比15.0%。

※²開催競馬場の入場人員にパークウインズ(1,364,800名)、場外発売所(12,464,172名)、電話・インターネット投票(154,768,797名（含む海外競馬の利用者1,473,466名）)の利用者数を加えたもの。

● 開催日程の変更等

降雪の影響により、第3回中山競馬第2日（3月29日）第3競走以降を中止し、3月31日（火）に続行競馬を実施

〔発売金〕

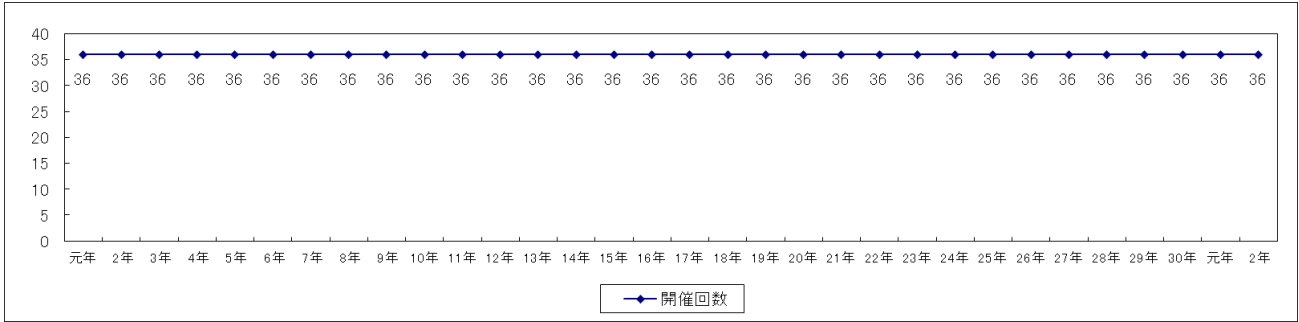
		対前年比	構成比(前年)※ ¹
中央競馬発売金 (内訳)	2,992,750,308,400円	103.4%	-
開催場における自場分	16,457,090,600円	19.5%	0.5%(2.9%)
〃 他場分	11,158,073,600円	21.8%	0.4%(1.8%)
パークウインズ	24,485,915,700円	19.9%	0.8%(4.3%)
場外発売所	165,308,075,100円	27.5%	5.5%(20.8%)
電話・インターネット投票	2,775,341,153,400円	136.5%	92.7%(70.3%)
海外競馬発売金	7,731,365,800円	43.5%	-
発売金（中央競馬+海外競馬）	3,000,481,674,200円	103.0%	-

※¹構成比については、端数処理をしているため、合計が100%とならない場合がある。

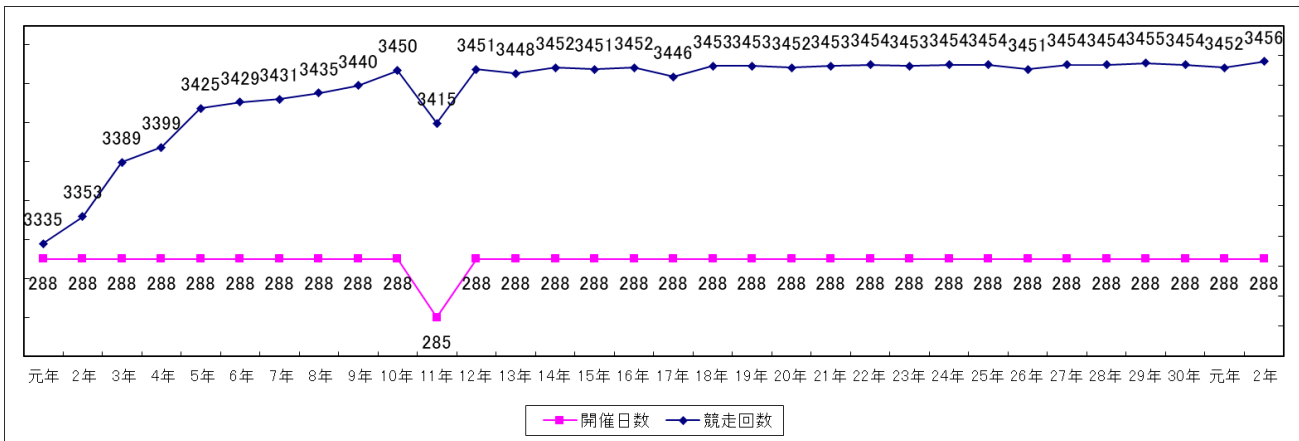
- 10競馬場、38場外発売所（盛岡・水沢の地方競馬場含む）及び電話・インターネット投票において勝馬投票券発売業務を実施
- ウインズ浦和・ウインズ川崎・ウインズ三本木を含む56か所の地方競馬施設※²に勝馬投票券発売業務を委託
- 中央競馬の発売金（海外競馬及びWIN5を除く）に占める重賞競走の割合は30.6%（前年実績31.3%）、GI競走の割合は14.6%（前年実績15.0%）
- GI競走の発売金は対前年比100.1%となり、前年実績を上回った競走は、全24競走中11競走
- 海外競馬の発売を6競走で実施

※²J-PLACE宇部は12月15日に発売を開始した。

【別表 3】開催回数の推移（平成元年以降）

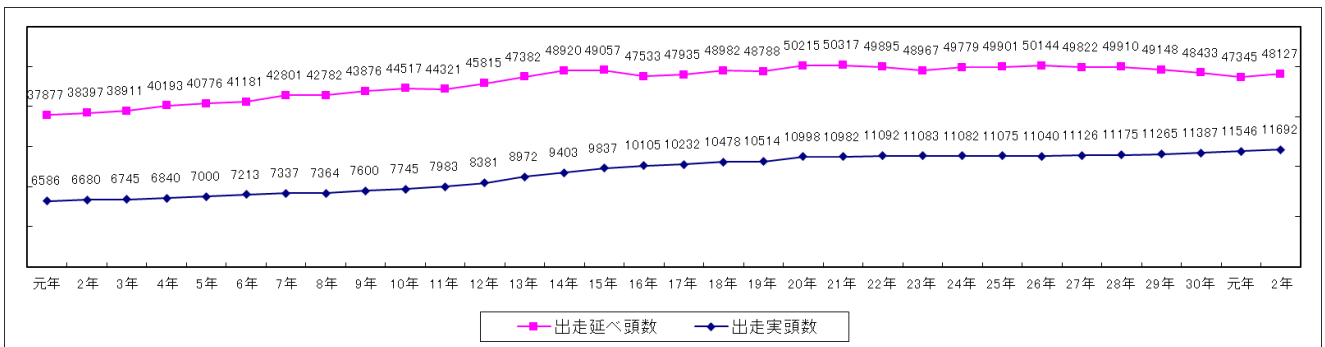


【別表 4】開催日数及び競走回数の推移（平成元年以降）

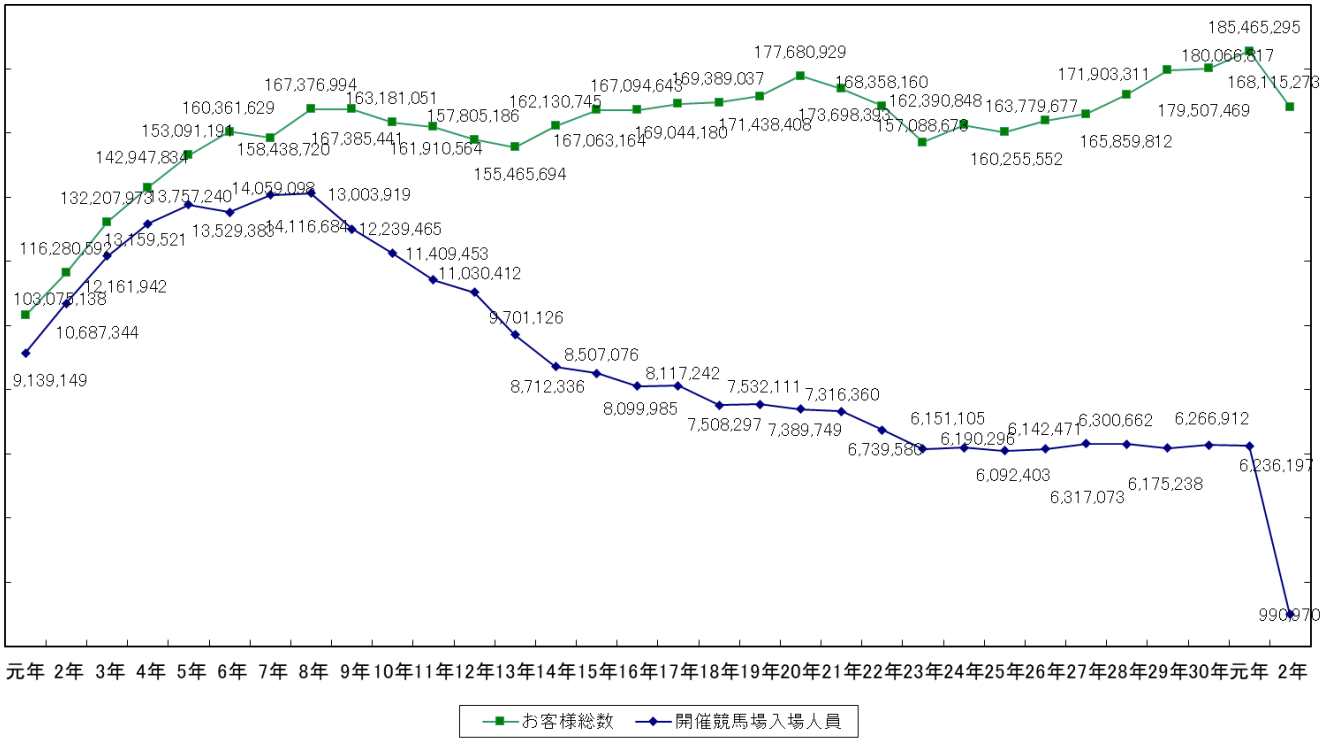


注) 平成 11 年：厩務員春闘の影響により 3 回中山第 3 日、2 回阪神第 3 日、2 回中京第 3 日を取止め

【別表 5】出走頭数の推移（平成元年以降）

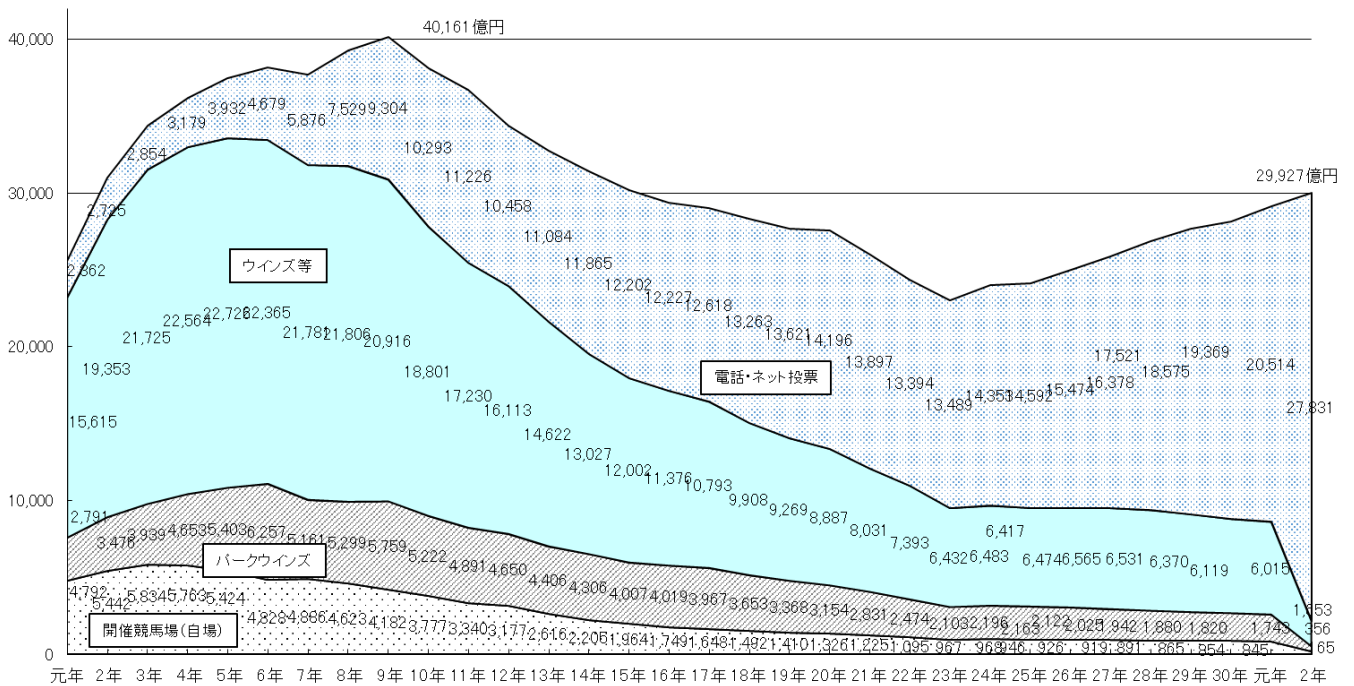


【別表 6】 お客様総数及び開催競馬場入場人員の推移

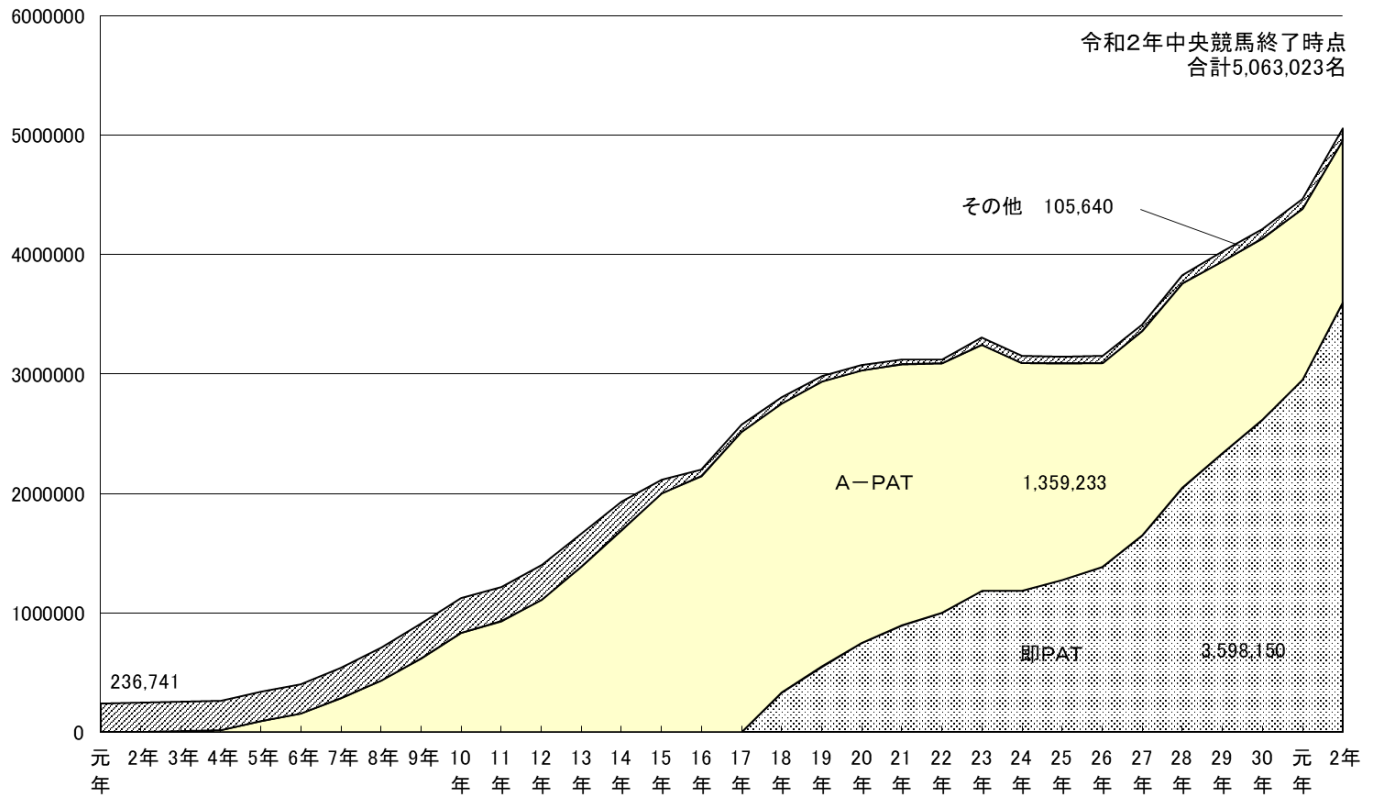


【別表 7】 発売金の推移

○ 発売金の推移(単位:億円)



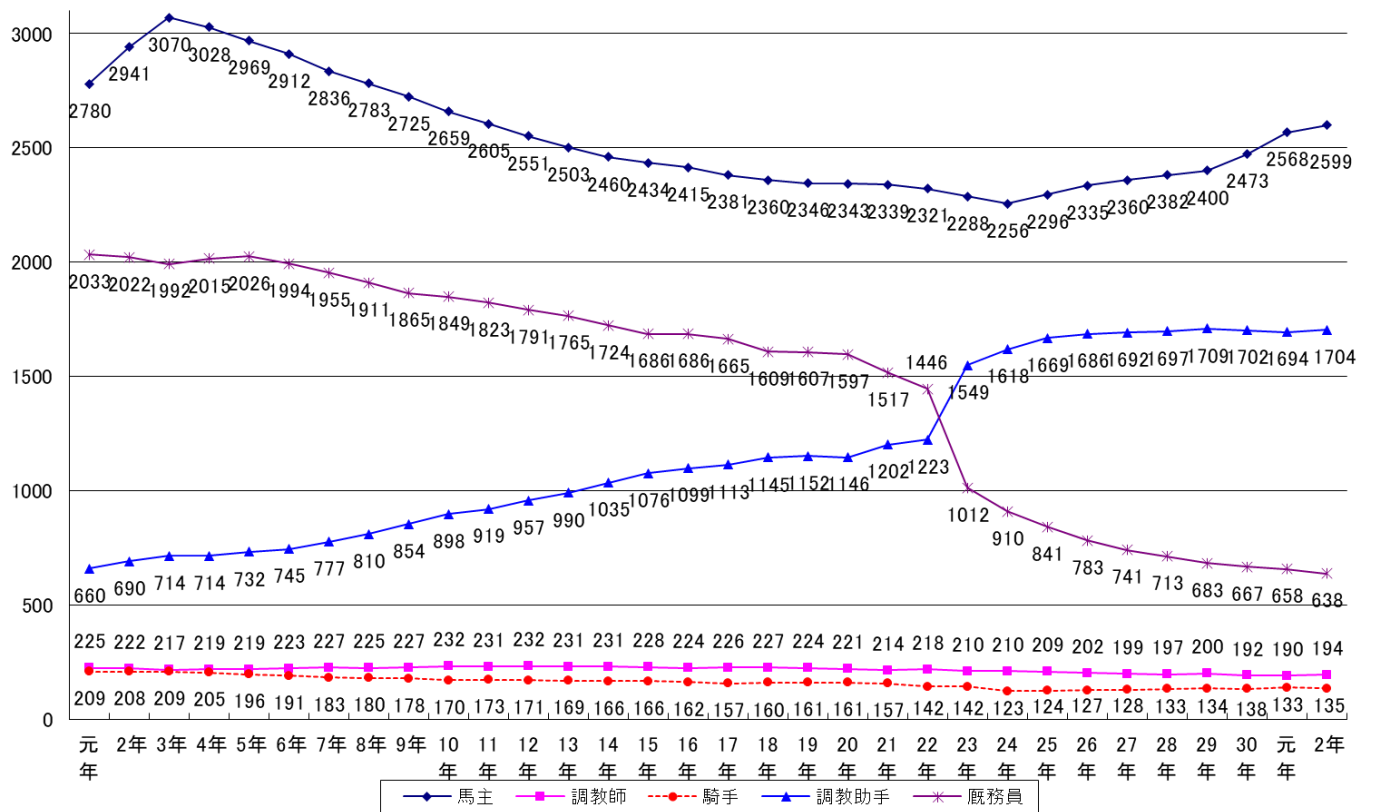
【別表 8】 電話・インターネット投票会員数の推移（平成元年以降）



【別表9】投票法毎の発売金の構成比（％）の推移（平成元年以降）※ 海外競馬分を除く

	単勝	複勝	枠連	馬連	ワイド	馬単	3連複	3連単	WIN5
平成元年	2.8	2.2	94.9	-	-	-	-	-	-
2年	2.8	2.2	95.0	-	-	-	-	-	-
3年	2.9	2.3	81.3	13.5	-	-	-	-	-
4年	2.7	2.3	35.4	59.6	-	-	-	-	-
5年	2.8	2.5	26.6	68.1	-	-	-	-	-
6年	2.7	2.6	22.9	71.8	-	-	-	-	-
7年	2.6	2.6	19.9	74.9	-	-	-	-	-
8年	2.6	2.6	17.8	77.0	-	-	-	-	-
9年	2.8	2.8	16.4	78.0	-	-	-	-	-
10年	3.1	2.9	15.1	78.9	-	-	-	-	-
11年	3.1	3.0	12.9	79.3	1.7	-	-	-	-
12年	3.0	2.4	10.9	70.5	13.2	-	-	-	-
13年	3.1	2.4	9.9	70.4	14.2	-	-	-	-
14年	2.8	2.4	8.3	54.7	10.8	10.9	10.1	-	-
15年	2.7	2.5	6.4	34.2	5.8	24.1	24.3	-	-
16年	2.9	2.7	5.8	28.2	4.9	22.0	25.5	8.0	-
17年	3.1	3.3	4.7	21.1	4.2	17.2	19.3	27.1	-
18年	3.4	4.0	4.8	19.6	4.4	15.7	19.4	28.7	-
19年	3.8	4.2	4.6	18.6	4.4	14.5	20.1	29.8	-
20年	3.7	5.1	4.3	17.1	4.3	12.4	19.2	33.9	-
21年	3.9	5.9	4.0	15.6	4.5	10.4	18.0	37.7	-
22年	4.2	6.4	3.8	15.1	4.8	9.8	18.7	37.3	-
23年	4.5	7.2	3.5	14.3	5.1	9.1	18.1	36.2	2.0
24年	4.7	7.6	3.6	13.9	5.4	8.7	18.2	35.8	2.1
25年	5.0	8.3	3.5	13.6	5.5	8.5	18.2	35.6	1.8
26年	5.3	8.6	3.5	14.3	6.0	7.9	18.6	34.2	1.5
27年	5.5	7.7	3.6	15.1	6.8	7.6	19.6	32.7	1.4
28年	5.6	8.1	3.4	14.5	7.2	7.2	19.9	32.8	1.3
29年	5.9	8.4	3.3	14.4	7.6	6.9	20.1	32.2	1.2
30年	6.2	8.7	3.1	14.3	8.2	6.6	20.1	31.5	1.3
令和元年	6.4	8.8	2.9	13.8	8.8	6.4	20.5	31.0	1.2
2年	6.8	9.6	2.5	13.4	9.9	6.0	21.2	29.2	1.5

【別表10】馬主・調教師・騎手・調教助手・厩務員数の推移（平成元年以降）



【別表11】国際競走等の状況

(1) JRA所属馬の海外遠征状況

出走月日	開催国	競走名	グレード	馬場	距離	馬名	騎手名	調教師名	着順/出走頭数
2月20日	UAE	UAEオークス	G3	ダート	1900m	セラシ	武豊	松永 幹夫	3/6
2月22日	オーストラリア	ピーターヤングステークス	G2	芝	1800m	スズカデヴィアス	M. ディー	橋田 満	7/9
2月29日	サウジアラビア	モハメドスフナギモーターズカップ		芝	2100m	ディアドラ	O. マーフィー	橋田 満	2/8
2月29日	サウジアラビア	サンバサウジダービーカップ		ダート	1600m	フルフラット	武豊	森 秀行	1/13
2月29日	サウジアラビア	サウジアカップ		ダート	1200m	マテラスカイ	武豊	森 秀行	2/13
2月29日	サウジアラビア	サウジカップ	G1	ダート	1800m	ゴールドドリーム	C. ルメール	平田 修	6/14
2月29日	サウジアラビア	サウジカップ	G1	ダート	1800m	クリソベリル	C. スミヨン	音無 秀孝	7/14
3月7日	オーストラリア	オーストラリアンカップ	G1	芝	2000m	スズカデヴィアス	D. イェンダ	橋田 満	9/14
3月21日	オーストラリア	モーニントンカップ	L	芝	2400m	スズカデヴィアス	J. アレン	橋田 満	11/12
4月11日	オーストラリア	クイーンエリザベスステークス	G1	芝	2000m	ダノンプレミアム	J. マクドナルド	中内田 亮正	3/12
7月5日	イギリス	エクリプスステークス	G1	芝	1990m	ディアドラ	O. マーフィー	橋田 満	5/7
7月30日	イギリス	ナッソステークス	G1	芝	1980m	ディアドラ	O. マーフィー	橋田 満	7/7
10月4日	フランス	凱旋門賞	G1	芝	2400m	ディアドラ	J. スペンサー	橋田 満	8/11
11月7日	アメリカ	フリーダースカップスプリント	G1	ダート	1200m	ジャスパープリンス	J. オルティス	森 秀行	14/14
11月20日	バーレーン	バーレーンインターナショナルトロフィー		芝	2000m	ディアドラ	H. ドイル	橋田 満	8/14
12月13日	香港	香港スプリント	G1	芝	1200m	ダノスマッシュ	R. ムーア	安田 隆行	1/14
12月13日	香港	香港スプリント	G1	芝	1200m	タワーオブロン	W. ビュイック	藤沢 和雄	13/14
12月13日	香港	香港マイル	G1	芝	1600m	アドマイヤマーズ	R. ムーア	友道 康夫	3/10
12月13日	香港	香港カップ	G1	芝	2000m	ノームコア	Z. パートン	萩原 清	1/8
12月13日	香港	香港カップ	G1	芝	2000m	ウインブライト	松岡 正海	畠山 吉宏	2/8
12月13日	香港	香港カップ	G1	芝	2000m	ダノンプレミアム	W. ビュイック	中内田 亮正	4/8

(2) 外国馬のJRA競走への出走状況

競走名	馬名	性	年齢	所属国	着順/出走頭数
ジャパンカップ	ウェイトウパリス	牡	7歳	仏	10/15

【別表12】

◎ 特別振興事業について

① 競馬振興事業（令和2事業年度）

【JRA直接実施事業】

事業名	事業内容	実施額（円）
1.競馬理解増進総合事業 （競馬場誘引型） （催事型） （メディア活用型） （馬事紹介型）	<ul style="list-style-type: none"> ・競馬場への来場を誘引するための催事等の実施 ・競馬未経験層を主な対象としたキャンペーンや催事等の実施 ・メディア等を通じた競馬未経験層への理解増進 ・馬を活用した催事等の実施 	2,096,866,203
2.厩舎関係者救護体制円滑化事業	医療機器整備を通じた、競馬場等の近隣医療機関との連携強化	26,542,403
3.厩舎関係者救護体制特別支援事業	新型コロナ禍における関係医療機関に対する医療資源確保の支援	225,285,430
4.競走馬の獣医師を目指す学生のための学業奨励事業	競走馬の獣医師を目指す大学の獣医学生を対象とした奨学金制度	28,270,000
5.国際競馬振興事業	アジア競馬振興関連経費、諸外国における日本競馬プロモーション展開等	19,718,320
6.東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた馬事公苑整備工事に伴う各種馬術競技会開催等支援事業【直接実施分】	東京競馬場等の馬術競技会開催に必要な競技用馬の確保等支援	3,666,880
7.東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とする「馬術の裾野拡充」及び「引退競走馬のセカンドキャリア形成等に向けた取組み支援」事業【直接実施分】	馬術の裾野拡充に資する映像情報の制作・提供、引退競走馬の諸課題に関する調査研究、障害者乗馬・ホースセラピー等活動支援啓発等	1,606,702,006
8.東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた会場整備等支援事業	東京オリパラ組織委員会の取組みへの協力を通じた、馬事振興・競馬産業への理解醸成	4,000,000,000
9.東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会馬術競技開催に向けたJRA馬事公苑整備事業	JRA馬事公苑諸施設の整備	27,735,621
合 計		8,034,786,863

【助成事業】

事業名	事業実施主体	事業内容	交付額（円）
1.競馬場通りの街路灯更新事業	府中市	東京競馬場前の競馬場通りに設置されている街路灯の更新	46,186,800
2.ウォーキングマシン導入支援事業	(一社)日本調教師会	トレーニング・センターにおけるウォーキングマシン導入に係る支援	45,118,458
3.JBBA 人材養成事業用施設整備事業	(公社)日本軽種馬協会	J B B Aが行っている軽種馬育成技術者養成研修の施設改修	381,000,000
4.引退名馬繋養展示事業	(公財)ジャパン・スタッドブック・インターナショナル	競馬の発展に貢献した名馬とのふれあい創出、名馬の余生の環境作り	37,882,510
5.競走馬マイクロチップ埋込推進事業	(公財)ジャパン・スタッドブック・インターナショナル	マイクロチップ埋込に係る経費の一部補助	18,801,780
6.日本競馬の情報・技術発信事業	(公財)ジャパン・スタッドブック・インターナショナル	海外へのレース映像配信、ウェブサイト等を通じた海外への日本競馬情報発信及び人材交流等を通じた技術発信	79,163,302
7.地方競馬との共同広報事業	特別区競馬組合 兵庫県競馬組合	地方競馬主催者と共同で行う情報提供・広報宣伝	144,651,525
8.軽種馬改良情報システム整備事業	(公社)日本軽種馬協会	軽種馬改良情報システムの改修	98,000,000
9.地方競馬振興促進事業	各地方競馬主催者等	地方競馬場、発売施設の整備等	71,544,140
10.競走馬理化学研究所における新薬物検査体制確立事業	(公財)競走馬理化学研究所	国際標準に合致した薬物検査体制の構築・整備	502,000,000
11. 競走馬理化学研究所における競走馬の遺伝子ドーピング検査法確立事業	(公財)競走馬理化学研究所	競走馬の不正な遺伝子操作の抑止及び規制に係る事業	68,560,000
12.東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた馬術競技強化対策事業	(公社)日本馬術連盟 (公社)日本近代五種協会	東京オリンピック・パラリンピックで好成績をあげるための選手強化、優良競技馬の確保等	954,700,000 52,000,000
13.東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた馬事公苑整備工事に伴う各種馬術競技会開催等支援事業【助成分】	(公社)日本馬術連盟 (公財)三木山人と馬とのふれあいの森協会	馬事公苑整備工事に伴い影響を受ける各種馬術競技会が安定的に開催されるための支援	135,000,000 565,000,000
14. 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とする「馬術の裾野拡充」及び「引退競走馬のセカンドキャリア形成等に向けた取組み支援」事業【助成分】	(公社)全国乗馬倶楽部振興協会 (公社)日本馬事協会	馬に係わる人材の養成、障害者乗馬・ホースセラピー活動の充実、引退競走馬の乗用馬への転用促進等	474,000,000 8,500,000
合計			3,682,108,515

②畜産振興事業（令和2事業年度）

	事業名	事業実施主体	事業内容	交付決定額 (千円)
1	北海道和種を代理母にして高付加価値生産の確立事業	岩手ふるさと農業協同組合	馬産農家の高齢化と飼養環境の変化から東北の馬産地である青森県と岩手県の生産頭数が減少しており、その対策として、飼養管理者の労働負担を少なくし、適正な価格で販売できる馬の生産方法の確立が必要である。この事業は、受精卵移植の技術を活用して北海道和種を代理出産母馬にして優良な血統書付き乗用馬を生産し、低コストでの飼養と馴致・調教を行い、適正な価格で販売できる方法を検討することにより、次世代へ継続できる馬産地づくりを目的とする。	10,364
2	自然災害に強い畜産経営の実現調査事業	一般社団法人 全日本畜産経営者協会	我が国では過去10年間、平成23年の東日本大震災に加えて多くの台風・豪雨災害が発生し畜産経営に甚大な被害をもたらしている。この事業は、全国で自然災害に強い畜産経営の実態調査を行うとともに、地域段階でワークショップを開催し、災害時・災害後の対応方法である畜産インフラの機能診断、リスク分析、予防保全対策等を「畜産経営災害危機管理マニュアル」として取りまとめ、自然災害に強い畜産経営の実現に資することを目的とする。	11,425
3	混合発酵飼料を用いた羊肉生産実証事業	公益社団法人 畜産技術協会	この事業は、めん羊を活用した被災地域の畜産振興に資するため、福島県の地域特産物であるリンゴの加工残渣を利用したリンゴジュース粕混合発酵飼料を活用したプレミアム羊肉の生産実証に向け、混合発酵飼料の品質安定化や給与体系に関する調査を実施するとともに、混合発酵飼料給与効果の検証等を行い、地域に貢献できる販売体系等を検討することを目的とする。	48,410
4	原発事故被災地での飼料生産促進事業	立野連絡協議会	原発事故被災地での畜産の再生を図るため、福島県浪江町内に酪農復興牧場（搾乳1千頭規模）の建設が予定されており、同町内の立野地区では担い手に集積した農地100haにおいて飼料作物の供給と堆肥の受け入れが計画されている。しかし、事前に実施した試験栽培の結果、一部の圃場で放射性物質の自主基準値（30Bq/kg）を超える恐れがあることが判明したため、この事業では建設計画の実施に先立ち堆肥施用による地力回復効果とともに堆肥中のカリウムによる放射性物質の移行低減効果を検証するための実証栽培を行うことを目的とする。	19,648

			とする。	
5	酪農家の働き方改革簡易診断解決ツール開発事業	公益財団法人 日本生産性本部	この事業は、酪農経営の集約化、大規模化の進展の下で改善されていない長時間労働という酪農家の労働負担の軽減を図るため、前事業により明らかとなった酪農家の働き方改革の阻害要因、すなわち5Sやカイゼンのポイントとその解決策の方法について、酪農家自身が自発的かつ容易に実施できる「簡易診断解決ツール」を開発するとともに、農協等と共同でセミナーを開催し、当該ツールを酪農家に普及啓発することを目的とする。	11,612
6	スマート畜産海外先進モデル調査事業	公益社団法人 畜産技術協会	近年、耕種部門を中心にスマート農業の普及が推進されているものの、畜産においては、飼料生産(放牧を含む)、繁殖、肥育等、堆肥処理、畜産物加工等生産工程が多岐にわたることもあり、先進技術を利用したスマート化が遅れている現状にある。この事業ではAI、IoT等を活用したスマート畜産の先進国の事例を現地調査し、報告書を作成するとともに、セミナー等を開催してわが国に適したスマート畜産の普及を図ることを目的とする。	18,505
7	産業動物女性獣医師の活動推進事業	国立大学法人 宮崎大学	この事業は、産業動物に関わる女性獣医師が離職することなく生涯働き通せるよう、女性が結婚・妊娠・出産・育児・介護等の悩みを共有できるネットワークの強化や女性に対しメンタルヘルスについての啓発を行い、ワーク・ライフ・バランスの実現に必要な知識の普及を行っていくとともに、事業者に対しても、広報活動を通じて職場環境改善の提言を行うことを目的とする。	1,409
8	障がい者養蜂での労働環境創出調査研究事業	一般社団法人 トウヨウミツバチ協会	障がい者が養蜂現場に障がいの程度に応じて参画するためには、適切な技術指導や知識の習得だけでなく、現場での実技指導が不可欠である。この事業は、近隣の養蜂家から直接定期的に指導を受ける一方、専門家とともに技術習得の過程改善や労働参画意欲の向上、一般就労への移行の可能性などを検証し、その成果を公開すると同時に、現地での検討会や全国規模の報告会を開催することを目的とする。	31,792
9	牛乳房炎に対する乳汁移植技術開発事業	学校法人 麻布獣医学園 麻布大学	この事業は、乳牛の抗菌剤によらない乳房炎治療法の知見を提供し乳房炎の防止を図るため、乳房炎の発症時の乳房内微生物叢及び健常牛の乳房内微生物叢を網羅的に解析し、乳房炎を引き起こしている病原性微生物を明らかにするとともに、健常牛の乳汁移植療法による乳房内微生物叢の正常	36,735

			化によって乳房炎の治癒を可能にする技術を開発することを目的とする。	
10	マイクロ波食肉製品異物検出装置研究開発事業	食肉生産技術研究組合	この事業は、食肉事業者にHACCPによる衛生管理が制度化される中、食肉製造段階における食肉の安全性の確保に対応するため、食肉製品の原料及び食肉製品に付着又は埋没している金属片、獣毛等の全ての異物を検出するマイクロ波を活用した食肉製品異物検出装置の研究開発を目的とする。	64,447
11	牛乳の異臭成分発生防御に関する研究事業	学校法人 渡辺学園 東京家政大学	この事業は、乳製品の原料となる生乳の異臭問題を未然に防止するため、市販牛乳において発生が確認され、生乳生産現場で発生している可能性が高いと考えられる異臭成分（2-ヨード-4-メチルフェノール）が、どのように生乳に混入し、牛乳にまで影響を及ぼしたかを明らかにするとともに、どのようにこの異臭が発生しているのかを解明することを目的とする。	3,948
12	電子指示書を用いた豚群衛生管理の実証試験事業	国立大学法人 東京大学	この事業では、動物用医薬品の適正な使用に基づく、衛生管理の向上と畜産物の安全性の確保に資するため、抗菌剤等の動物用医薬品の購入に要する獣医師の指示書を獣医師、生産者、医薬品販売店、家畜保健衛生所の間で共有するため電子的に送受信する仕組みを検討・作成し、養豚分野で実証試験を行うとともに、飼養衛生管理の向上等に活用する方法を検討する。さらに、他の畜種も含め、全国展開する際の課題を整理し、我が国の実態に即した仕組みを提案することを目的とする。	90,942
13	国産豚で作る生ハム認証基準制定・普及事業	一般社団法人 国産生ハム普及協会	この事業は、国産豚の低需要部位である腿肉と塩のみで作られる国産長期熟成生ハムの認知度の確保・向上及び普及を図るため、前事業の成果を踏まえ、製造施設の環境調査、販売製品の微生物や成分検査等を行い、生産者団体として認証制度を確立し、信頼確保や品質向上と安定の基盤作りを行うとともに、認知度を向上させるための新たなブランド化を含む普及活動を行うことを目的とする。	31,654
14	乳・乳製品の官能評価員能力向上・認定事業	公益財団法人 日本乳業技術協会	この事業は、近年、学校給食用牛乳の異味・異臭問題等がクローズアップされる中、異常風味の検出、乳・乳製品の安全性・品質の判断に不可欠なヒトの五感による官能評価のレベルアップを図るために、集乳から製品出荷に至る各段階における評価者である集乳車の運転手などの官能評価実施者を対象とした研修会を実施し、評価員	44,647

			の認定を行うことにより、酪農乳業全体の官能評価技術のレベルアップを図ることを目的とする。	
15	ジビエ利用促進畜産物生産環境保全・安全確保推進事業	公益財団法人 日本食肉消費総合センター	安全な畜産物の生産環境を保全する上で野生鳥獣の生息数の適切なコントロールを行うことが喫緊の課題となる中、豚熱の感染拡大に対応した対策が強化されており、野生イノシシ等の野生鳥獣の捕獲の強化に伴い、ジビエとしての利用の促進が急務となっている。この事業は、一般消費者のジビエに対する理解醸成を図るための試食イベントの開催等を行うとともに、ジビエの処理加工・流通の高度化を図るための研究会の開催等を行うことを目的とする。	32,028
16	食肉流通HACCP推進事業	全国食肉事業協同組合連合会	この事業は、食肉卸・小売業者がHACCP導入の義務化に対応し、引き続き現場での「HACCPの考え方を取り入れた衛生管理」を定着させるため、記録の習慣化やさらなる衛生管理の改善点、フォローアップ等に関する巡回指導、セミナー等を引き続き行う。さらに、「HACCPに基づく衛生管理（基準A）」については、50人以上の食肉処理事業所を対象としているものの、50人未満であっても自主的にステップアップを目指す事業者からの要望があることから、今後、基準Aからの第三者認証への移行も踏まえ、「HACCPに基づく衛生管理のための手引書」を作成し関係者に配布することにより、安全・安心な国産食肉の供給に資することを目的とする。	163,854
17	乳用牛生産性長命連産性の遺伝改良研究事業	一般社団法人 日本ホルスタイン登録協会	この事業は、乳用牛の生産性及び長命連産性の遺伝的能力の向上を図るため、耐病性のゲノミック評価法と耐病性の選抜指数（耐病性指数）を研究開発するとともに、生産寿命に影響する体型形質、繁殖性及び耐病性を考慮した改良を推進するため、総合指数並びに長命連産効果を抜本的に見直す研究を行い、その成果の提供方法を検討し、改良手法の普及に応用することを目的とする。	101,128
18	乳牛の乳房炎発症予防手法開発事業	国立大学法人 東北大学	この事業は、酪農業における喫緊の課題である乳牛の乳房炎発症の予防を図るため、乳房炎発症あるいは抗病性に関わる乳汁中因子の乳房炎発症との関連性について牛群を用いて遺伝的影響を検証し、プロバイオティクス飼料給与等の免疫能向上を融合した乳牛の乳房炎に対する抗病性改善・乳生産性向上に関する検証を行う。さら	117,120

			に、抗生剤に依存しない飼養管理手法の改善による総合的な乳房炎発症予防法のための指針を確立することを目的とする。	
19	牛ガラス化胚の新規移植法開発・実用化事業	学校法人北里研究所 北里大学	この事業は、牛ガラス化胚の移植は融解後の生存性は極めて高いが、胚融解に顕微鏡下での操作が必要となるため、牛胚移植への応用は困難とされてきたことから、酪農・畜産農家でのガラス化胚の簡便な融解・移植法を開発し、移植後の受胎率の大幅な向上を図ることを目的とする。	33,823
20	牛体外受精胚の高品質化技術開発事業	国立大学法人 岩手大学	この事業は、畜産現場における肥育・繁殖・乳生産用素牛の安定生産と生産コストの低減を図るため、牛体外受精胚(以下、「IVF 胚」という。)の遺伝子発現動態(遺伝子発現プロファイル)解析による牛 IVF 胚の品質評価法を確立する。そして、それらを用いた IVF 胚の体外発生培地に添加する成長因子の種類及び添加濃度の検討並びに、遺伝子発現プロファイルを正常化できる新規体外発生培地の開発を行うことにより、低い受胎性と産子の過大化という積年の課題を克服する高品質 IVF 胚の作出技術を開発することを目的とする。	44,758
21	蜜蜂飼料(代用花粉エコフィード)の開発事業	大阪府立園芸高等学校	この事業は、輸入に頼っている養蜂用ミツバチ飼料(代用花粉)として、酒粕等の食品廃棄物を主原料としたオリジナルの国産代用花粉を製造し、ミツバチへの給餌試験を行い国産の代用花粉エコフィードとしての有効性を確認するとともに、その成果について関係機関等への情報提供を行い養蜂業界へ普及することを目的とする。	3,450
22	和牛受精卵生産管理システム開発事業	全国農業協同組合連合会(代表機関) 公益社団法人 畜産技術協会	この事業は、我が国の和牛の遺伝資源を保護し、更なる和牛の価値を向上させるため、極低温下(マイナス 196℃)の液体窒素タンク内で保管されるストローの実在庫を容易に確認することが極めて重要であることから、極低温下でも動作する IC タグを用いて、液体窒素タンク内の受精卵ストローを集合検知できる仕組みを開発し、和牛受精卵の生産管理システムを構築することを目的とする。	29,418
23	ウシ MHC 領域インピュテーション法の開発事業	学校法人十文字学園 十文字学園女子大学	牛白血病(MHC)を含む重要な疾患責任遺伝子が多数存在するが、この事業では高度な多型制に富むことから解析が極めて困難であったウシの MHC 領域の多型情報を、高密度 SNP の型判定データを用いて予測する BoLA インピュテーション法を構築する。また、BLV に感染し発症した牛と感染した	76,890

			にもかかわらず健康な牛のサンプルを用いて新しい予測方法の検証を行い、リスク遺伝子・多型を同定する高速度遺伝子診断技術を確立することを目的とする。	
24	黒毛和牛の魅力創出技術の構築事業	国立大学法人 神戸大学	この事業は、黒毛和種固有の肉質の魅力を創出して、黒毛和牛の「肉質と脂質の質」の優位性キメの細かい脂肪交雑、脂肪の融点の低さに着目し、脂肪交雑の微細な組織構造、融点に関わる脂質の分子組成の解析方法を開発し、黒毛和種と他の肉専用種の部位毎の違いを検討する。さらに、研究活動を通して、畜産関係者と連携や海外大学と大学間交流を図り、特別セミナーの開催による国産畜産物に関する情報発信を行うことを目的とする。	12,158
25	免疫活性化で受胎性を高める牛受精卵移植法事業	国立大学法人 帯広畜産大学	この事業は、和牛生産農家の経営基盤を安定させ、生産体制の強化に資するため、受精卵を異物と見なさず寛容する受卵牛の免疫環境を整えることで受精卵移植（以下、「ET」という。）による受胎率を向上させる移植法を構築し、大規模 ET 試験で経済効果と合わせて検証を行い、技術体系として実用化を図ることを目的とする。	96,709
26	黒毛和種の強化ゲノム情報の改善・活用事業	公益社団法人 畜産技術協会（代表機関） 国立大学法人 東京大学 国立大学法人 琉球大学	黒毛和種の育種改良がゲノム育種価の利用によりスピードアップが期待される一方で、劣性遺伝子病の発生が危惧されるため、遺伝的不良形質の迅速かつ確実な抑制が必須であることから、この事業ではこれまでの事業で整備されてきた黒毛和種ゲノムデータベースを利用して黒毛和種遺伝子の有害変異を効率的に特定する手法の開発を行う。さらに、これに必要な遺伝子情報基盤の改善整備を行うため各種解析を行い、継続的に不良遺伝子を特定可能とする育種改良体制を構築することを目的とする。	148,024
27	すす紋病抵抗性品種選抜マーカー開発事業	一般社団法人 日本草地畜産種子協会	この事業は、全国的に重要病害となっている飼料用トウモロコシすす紋病の更なる対策の強化を図るため、本病の抵抗性遺伝子を特定するDNAマーカーを開発することにより、品種育成においてトウモロコシすす紋病に強い抵抗性を持つ遺伝子を効率的に付与することを可能にする。さらに、海外導入品種におけるトウモロコシすす紋病抵抗性品種の選定を効率化し、優良品種普及の迅速化による飼料自給率の向上に寄与することを目的とする。	54,404
28	安定多収・環境耐性ライグラス品種開発事業	一般社団法人 日本草地畜産種子協会	畜産物生産費の過半を占める飼料費の低減による安定的な畜産経営を図	132,026

			るためには、国産飼料作物の作付け拡大や栄養単収の向上による飼料増産が喫緊の課題である。この事業は、牧草の中でも特に高栄養なライグラス類について、多様な環境リスク下でイタリアンライグラスの倒伏耐性、いもち病抵抗性、ペレニアルライグラスの越冬性、雪腐病抵抗性においても安定多収性を示す環境耐性品種の開発・普及を促進することを目的とする。	
29	飼養技術の最適化と消費者評価による国産豚肉の競争力強化事業	学校法人 近畿大学	国産豚肉が輸入肉と競争するためには高付加価値化が急務であり、肥育豚の脂肪交雑の向上を図るために、アミノ酸比率法(肥育成績を低下させず脂肪交雑を向上させる技術)が開発されている。しかし、未だ脂肪交雑を再現性良く向上させる詳細条件や経営面での技術評価には課題が残ることから、この事業ではアミノ酸比率法の詳細な条件確立及び肥育飼養成績と生産物の脂肪交雑以外の品質の違いの解明、画像解析、消費者調査等から技術評価を行い、脂肪交雑向上技術の最適な導入条件を生産者にガイドラインとして示すことを目的とする。	66,646
30	肉用牛の高度生産体系確立・普及事業	一般社団法人 家畜改良事業団	肉用牛の枝肉形質や脂肪酸組成等の育種価評価技術の開発、その表型値などのデータの蓄積等が近年、拡大し、これらの技術や情報を駆使すれば肉用牛生産の合理化や輸入牛肉との差別化等が飛躍的に進むにもかかわらず、これらの検証が行われず十分に活用されていない。そこで、この事業は追加的な調査研究により期間短縮型肥育や交雑種牛肉の差別化など革新的な生産体系の確立とその普及を図り、肉用牛生産の国際競争力の強化に資することを目的とする。	88,344
31	新たな食肉産地モデル形成に向けた調査研究事業	根釧酪農畜産振興会	この事業は、国が進める和牛増頭施策に沿って根釧の酪農地域が一体となり乳肉複合での肉用牛増産と食肉生産を強化する次世代型生産・経営モデル構築を目指した調査研究に取り組むとともに、技術モデルの他地域への水平展開につなげ、わが国の酪農振興に資することを目的とする。	39,416
32	混合堆肥の利用拡大普及事業	一般財団法人 畜産環境整備機構	この事業は、令和元年10月の肥料取締法改正で化学肥料と堆肥を混合した肥料(以下、「混合堆肥」という。)が届出のみで生産可能となり、より一層堆肥を使った肥料の開発利用が見込めるようになったことから、農家の利用拡大・普及を図るため、混合堆肥の肥効特性と施肥設計法を開発し、作物栽培でその妥当性を検証すると	97,209

			もに、「混合堆肥複合肥料」に混合する牛ふん堆肥の適正な品質を明らかにし、その試作品を製造し、情報を提供することを目的とする。	
33	畜産臭気の不快感軽減技術開発普及事業	一般財団法人 畜産環境整備機構	この事業は、畜産現場の悪臭苦情低減については、これまで臭気強度及び臭気濃度を低減する技術を開発し様々な対策を講じているが、畜産経営と一般住民居住場所の近接化が益々進み、不快感を訴える臭気苦情問題が深刻化しているため、従来の臭気強度等に加え、臭いの不快性まで考慮した臭気対策が必要となっていることから、臭気低減資材や浄化槽処理水等を活用して、コスト低減に配慮した臭気の不快感軽減技術を開発し普及することを目的とする。	114,889
34	和牛経産牛肉の機能性成分等分析事業	一般社団法人 全国肉用牛振興基金協会	この事業は、和牛経産牛を活用した和牛肉の新たな高付加価値化による収益性の向上を図るため、和牛繁殖雌牛を再肥育して生産された牛肉等の理化学分析やそのデータの蓄積・分析等を行う。また、慣行肥育で生産された和牛肉や、輸入牛肉との成分比較等を行うことで、その特長や課題を科学的に解明するとともに、飼養管理技術の向上に向けた肥育実証試験等の実施を通じて、特長ある和牛肉の評価改善に向けた検討や消費者ニーズに対応した和牛肉の供給体制の構築を図ることを目的とする。	66,911
35	和牛の地域特性活用ゲノム選抜定着化事業	公益社団法人 畜産技術協会	この事業は、和牛の SNP 情報を用いたゲノミック評価の技術の精度向上及びこれに不可欠なデータの蓄積のため、実技の研修、分析・解析に係る経費の支援等により技術の高度化・加速化に資する。また、新たな有用形質とその評価法、地域ごとの育種改良や遺伝的多様性の確保等への SNP 情報の活用について検討し、セミナー等で畜産関係者や生産者への啓発・普及を図ることを目的とする。	118,677
36	産業動物臨床分野卒業後教育モデルカリキュラムの実証事業	国立大学法人 宮崎大学	この事業は、事業実施主体が開発した産業動物臨床獣医師に対するプロトタイプの卒業後教育カリキュラムを、アジア等で発生が続くアフリカ豚熱や国内発生した豚熱の越境性家畜伝染病等の最新の知見や、獣医療の最新技術等への的確な対応を可能とする内容に修訂するとともに、全国の獣医系大学が連携して実施する卒業後教育体制構築のための検討を行うことを目的とする。	7,801
37	酪農における飼養管理改善対策事業	乳用牛群検定全国協議会	この事業は、今後の国際競争が激化すると考えられる我が国の酪農におい	98,971

			て、生産コストの削減による生乳生産の効率化を図るため、飼料の有効利用を促進する情報を農家に提供し、無駄な飼料給与を徹底的に削減するとともに、農家に毎月届けられている牛群検定成績を最新の情報処理技術を駆使した理解しやすい内容に加工し提供することにより、農家自身が情報を有効活用できることを目的とする。	
38	シェフと伝える持続型畜産確立事業	一般社団法人 全日本・食学会	この事業は、畜産経営において、環境負荷や低エネルギー、アニマルウェルフェアなどに配慮した持続型畜産物生産を目指している生産者の活動を被災地も含めて支援するため、国内のシェフがこれらの畜産物の特徴を活かしたメニューを提案し、試食会等を通して情報を発信し、消費者への理解を広げることを目的とする。	23,575
39	国産牛肉の差別化・競争力強化対応調査事業	公益社団法人 日本食肉格付協会	我が国の肉用牛経営は、TPP11、日欧EPA、日米貿易協定等の国際環境のなかで、和牛肉は輸入品との差別化ができるものの、その他の牛肉は、輸入チルド牛肉に対抗するための差別化の推進が喫緊の課題である。この事業では国産牛肉の競争力強化に向けて、生産者の改良推進や生産技術改善の取組に資する部分肉歩留、脂肪組成や肉色等の高精度かつ客観的な評価手法を開発することを目的とする。	91,829
40	牛呼吸器病症候群制御のための事業	国立大学法人 東京大学	この事業は、ウシの重要疾患である牛呼吸器病症候群（以下、「BRDC」という。）の効果的な制御を図るため、その原因として D 型インフルエンザウイルス（以下、「FluD」という。）がなり得ると考えられること、日本にも FluD が広範囲に侵淫し BRDC と関連していることを事業実施主体として明らかにしている。そのため、精密な疫学解析による科学的知見を基にワクチン株をリバースジェネティクス法によりデザインし、動物による前臨床試験を実施し、BRDC を効果的に制御しうる FluD ワクチンの開発を目指すことを目的とする。	33,354
41	豚呼吸器病早期発見のための AI 耳標センサ研究開発事業	公立大学法人 広島市立大学	この事業は、豚の感染症である呼吸器病の早期発見を図るため、豚の耳標に体内伝導音センサと小型 FM 無線装置を付けた耐久性が高く安価な装置を開発するとともに、罹患判断に有効なパラメータを AI で探索し、畜産農家が使いやすい AI 疾病判定耳標の実用化を目指すことを目的とする。	47,133
42	馬伝染性子宮炎自衛防疫普及促進事業	公益社団法人 日本軽種馬協会	この事業は、馬伝染性子宮炎（以下「CEM」という。）の国内への再侵入防止及び蔓延防止のため、防疫監視体制	38,521

			を維持し国内初供用牝馬及び子宮内膜炎等の本病を疑う症状を呈した牝馬を対象に PCR 検査を実施するとともに、各地で本病の講習会を実施し、軽種馬の安定的生産を図ることを目的とする。	
43	乗用馬防疫推進事業	公益社団法人 全国乗馬倶楽部振興協会	この事業は、馬インフルエンザ等馬伝染性疾患の防止を図るため、乗馬クラブ等で飼養されている乗用馬に対し、馬インフルエンザ、日本脳炎及び破傷風の 3 つの馬伝染性疾患の予防措置としてのワクチン接種の的確な実施を推進することを目的とする。	36,144
44	大学連携による家畜防疫に関する知の集積事業	国立大学法人 宮崎大学	口蹄疫、高病原性鳥インフルエンザの発生を受け、各獣医学系大学に家畜感染症研究機関が設立されている中、2018年に実施主体が主導となり重要家畜感染症の共同研究・教育体制の構築を目的とした「産業動物防疫コンソーシアム」を組織(7大学加盟)しており、本コンソーシアムの更なる体制強化を図るため、この事業では各機関の特色を活かして有機的に連携し、防疫に関する情報データベース及びネットワークを構築することを目的とする。	25,904
45	アジア地域臨床獣医師等総合研修及びネットワーク構築事業	公益社団法人 日本獣医師会	この事業は、自国の家畜衛生の向上及び我が国への越境性感染症等の侵入防止を図るため、口蹄疫、ASF 等の越境性感染症や人獣共通感染症が常在化しているアジア諸国で家畜の診療・防疫業務等に従事する臨床獣医師等を我が国に招聘し、獣医学系大学等において先端的知識・技術を含む臨床業務等を修得させるとともに、研修修了獣医師と常時の情報交換及び連携・協力体制を構築し、アジア各国における継続的かつ効果的な防疫活動に資することを目的とする。	266,126
46	野生獣衛生推進体制促進事業	家畜衛生対策推進協議会	近年、野生獣に係る衛生問題として、公衆衛生面ではジビエ増加に伴う E 型肝炎等の人獣共通感染症が憂慮されているとともに、畜産においては CSF 等の家畜伝染病の伝播拡散が飼養衛生管理上問題となっている。そのため、これまで野生獣対策として地域協議会の構築、獣肉処理施設等での衛生実態調査、侵入防止対策の普及等を進めてきているが、衛生問題がさらに深刻化していることから、この事業は、野生獣の衛生実態調査を推進し、情報発信及び衛生対策の普及啓発を図ることを目的とする。	145,698
47	馬伝染性疾患防疫推進対策事業	公益社団法人 中央畜産会	この事業は、馬の生産振興に大きな影響を及ぼす馬インフルエンザ、馬鼻肺炎等伝染性疾患の発生防止、育成馬及	204,187

			び生産地繁殖雌馬の損耗防止の観点から日本脳炎、破傷風、馬ゲタウイルス感染症等疾病に対する免疫の確保、維持・構築を図るため、生産者等と一体となったワクチン予防接種等を推進することにより、安定した馬の生産及び畜産の振興に資することを目的とする。	
48	馬飼養衛生管理特別対策事業	公益社団法人 中央畜産会	この事業は、多様化している馬の飼養衛生管理の充実強化を図るため、地域の馬獣医療を担う獣医師の衛生管理技術の向上や、疾病の早期診断や病性鑑定技術の保持・向上を図るとともに、競走馬以外の馬飼養衛生管理についての総合的馬自衛防疫体制の確立を目的とする。	46,089
49	臨床獣医師防疫体制強化事業	公益社団法人 中央畜産会	この事業は、家畜疾病の早期発見及び早期防疫対応を的確に実施するため、感染症の診断と治療、防疫と飼養管理の指導に携わる産業動物臨床獣医師に対し海外悪性伝染病等の診断に必要な技術研修等を実施し、防疫体制強化と意識の向上を図ることを目的とする。	138,450
50	地域豚疾病低減対策強化事業	公益社団法人 中央畜産会	この事業は、最近の国際競争の激化や国内でのCSFの発生、隣国のASFなどの悪性伝染病の流行も踏まえ、養豚農場の衛生管理を徹底し、生産性を著しく阻害するPED・PRRS・ADなどの疾病の発生低減を図るため、国内豚主要生産地域の農場を含む自衛防疫組織が、生産性を阻害する疾病の発生低減・排除に取り組む対策を計画立案し、防疫対策などを行うことを目的とする。	235,438
51	飼養衛生管理徹底等による養豚産業基盤強化事業	一般社団法人 日本養豚協会	養豚産業がCSF対応、ASF侵入防止等の防疫対策、TPP、日EU経済連携協定及び日米貿易協定による輸入豚肉の増加等の厳しい状況下にあることから、この事業では生産者を中心として養豚産業の関係者が参集し養豚産業基盤強化推進委員会を立ち上げ、CSFやASF等の疾病問題を共有し、全戸調査・指導による衛生管理の徹底等を図る。併せて、国内の生産レベル向上のための環境問題改善技術やCT等先端技術調査、国産豚肉の消費拡大のための優位性等の調査、生産者や消費者への情報提供を行い、輸入に対抗した国産豚肉の生産安定を図ることを目的とする。	42,195
52	スマート都市養蜂システムの研究開発事業	国立大学法人 電気通信大学	この事業は、都市のビルの屋上等を利用して行われる養蜂に、IoTとAI技術を導入したスマート都市養蜂システムを開発するため、センサやカメラ	7,668

			により巣箱の温湿度や重量データそして動画を解析し、スマートフォンで遠隔監視するとともに、巣箱内部の異常や外敵の襲来の検知、採蜜時期の判断などを可能とするシステムを開発する。さらに、持続可能な都市環境整備への貢献に向けて、屋上を利用した水耕栽培による都市農業との有用性も併せて検討することを目的とする。	
53	人工知能による牛体外受精卵の自動評価事業	国立大学法人 東京農工大学	牛の体外受精卵の受胎率は体内受精に比べ低く、過大死による難産・死産等の事故も多いことから、この事業では生育可能な牛体外受精卵を客観的かつ高精度に選別し、子牛の生産性向上を図るため、体外受精卵の生育状況を継続的に記録する TCL(タイムラプスシネマトグラフィ)画像と未経産牛への移植成績をディープラーニング技術を利用し、卵の生育成否予測バイオマーカーを探索するとともに、当該マーカーを利用した生育可能卵の自動選別システムを開発することを目的とする。	96,039
54	画像診断に基づいた牛の蹄形および削蹄法に関する研究事業	国立大学法人 岩手大学	この事業は、牛の護蹄管理の適正化によりウェルフェアレベルの向上を図るため、CT、MRI、超音波、X線および高速度カメラ連動加速度センサなどの画像診断を駆使し牛の機能的削蹄の目安を設定する。また、変形蹄・過長蹄における趾骨と蹄角質との位置関係や趾骨の変性などを明らかにすることを目的とする。	16,534
55	生殖器奇形原因遺伝子保因牛の鑑別と淘汰技術開発事業	国立大学法人 東京大学	この事業は、乳用牛の受胎率の向上を図るため、先天性の生殖器奇形であるミュー管融合不全が、受胎率を低下させることが明らかとなったことから、ミュー管融合不全の原因遺伝子(SNPとその近傍遺伝子)を特定することを目的とする。	28,587
56	放牧地温暖化影響評価モデル構築事業	国立大学法人 北海道大学	この事業は、畜産分野からの温室効果ガス(以下、「GHG」という。)の削減を図るため、国内放牧地の乳肉生産性に対する地球温暖化影響評価モデルを構築し、生産性と温暖化抑制を両立する管理モデルを提案する。さらに、そのモデルに組み込む食べ残し牧草や排せつ物の炭素貯留への寄与並びにGHG排出係数を明らかにし、国内放牧地における温暖化緩和効果を見える化するのを目的とする。	42,630
57	受精卵による障がい者乗用馬等の生産法確立事業	国立大学法人 帯広畜産大学	障がい者乗用馬及び在来馬に対する人工授精・受精卵移植技術を活用した効率的生産を図るため、これらの技術の普及定着に向けて、受精卵移植技術、代理母馬の集団飼養と受精卵の遠	100,546

			隔輸送移植、馬凍結受精卵作成技術を確立し、受精卵を用いた生殖補助医療を発展させることを目的とする。	
58	蜜蜂のダニ寄生とウイルス感染率の実態調査事業	一般社団法人 日本養蜂協会	この事業は、我が国の養蜂業において、蜜蜂のウイルス感染を防除し、蜂蜜などの畜産物の安定生産並びに花粉交配用蜜蜂の安定供給に寄与するため、ミツバチヘギイタダニ及びダニ寄生による蜜蜂のウイルス感染についての実態調査を行い、その調査結果を養蜂家及び関係機関等に提供することを目的とする。	3,906
59	初生ひな鑑別師養成・鑑別技術向上事業	公益社団法人 畜産技術協会	肛門鑑別による初生ひな雌雄鑑別は、日本で開発された畜産技術であるが、羽毛鑑別の普及により、この技術を有する鑑別師の高齢化と後継者育成が問題となっている。この事業では着実な継承を図るため、養成事業の中での技術の習得並びに現役鑑別師の技術を向上させる。また、近年、卵での雌雄鑑別に取り組む動きが海外で本格化していることに伴い、今後の初生雛鑑別事業、ひいては日本国内の養鶏事情を予測するため、海外調査を行うことを目的とする。	29,011
小 計				3,869,756

(注) 上記の各事業は、(公財)全国競馬・畜産振興会を通じて実施するものである。

事業名	事業実施主体	事業内容	実績額 (千円)
畜産振興事業附帯事業	本会	学識経験者からなる審査委員会を設置し、新規事業を選定するとともに、特定法人において助成金交付業務を行う。また、学識経験者からなる評価委員会を設置し、事業評価を行う。	91,560
小 計			91,560
総 計			3,961,316

JRA賞 受賞馬及び受賞者

1. 競走馬部門

	受賞馬	(馬主)	(厩舎)
年度代表馬	アーモンドアイ	(有) シルクレーシング	美浦・国枝 栄 厩舎
最優秀2歳牡馬	ダノンザキッド	(株)ダノックス	栗東・安田 隆行 厩舎
最優秀2歳牝馬	ソダシ	金子真人ホールディングス(株)	栗東・須貝 尚介 厩舎
最優秀3歳牡馬	コントレイル	前田 晋二 氏	栗東・矢作 芳人 厩舎
最優秀3歳牝馬	デアリングタクト	(株)ノルマンディーサラブレッドレーシング	栗東・杉山 晴紀 厩舎
最優秀4歳以上牡馬	フィエールマン	(有) サンデーレーシング	美浦・手塚 貴久 厩舎
最優秀4歳以上牝馬	アーモンドアイ	(有) シルクレーシング	美浦・国枝 栄 厩舎
最優秀短距離馬	グランアレグリア	(有) サンデーレーシング	美浦・藤沢 和雄 厩舎
最優秀ダートホース	チュウワウィザード	中西 忍 氏	栗東・大久保龍志 厩舎
最優秀障害馬	メイショウダッサイ	松本 好雄 氏	栗東・飯田 祐史 厩舎
特別賞	クロノジェネシス	(有) サンデーレーシング	栗東・斉藤 崇史 厩舎

2. 調教師・騎手部門

①調教師部門

最多勝利調教師	矢作 芳人 (栗東)
最高勝率調教師	友道 康夫 (栗東)
最多賞金獲得調教師	矢作 芳人 (栗東)
優秀技術調教師	矢作 芳人 (栗東)
特別賞	藤沢 和雄 (美浦)

②騎手部門

最多勝利騎手	C. ルメール (栗東)
最高勝率騎手	川田 将雅 (栗東)
最多賞金獲得騎手	C. ルメール (栗東)
MV J	C. ルメール (栗東)
最優秀障害騎手	森 一馬 (栗東)
最多勝利新人騎手	該当者なし

◎地方競馬全国協会を通じた交付金の交付

【競走馬生産振興業務への交付】

- 地方競馬全国協会が行う、軽種馬流通促進・経営基盤強化対策等の「競走馬生産振興業務」に対し2, 316, 000, 000円を交付

【認定競馬活性化計画補助業務への交付】

- 地方競馬全国協会が行う、認定都道府県等に対する「認定競馬活性化計画補助業務」に対し2, 739, 863, 495円を交付